

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
経済経営基礎演習	田口 誠	2
経済課題研究I	井上 智夫	6
経済課題研究II	井上 智夫	10
経営課題研究I	上田 泰	14
経営課題研究I	石井 裕明	18
経営課題研究I	山崎 由香里	22
経営課題研究II	上田 泰	26
経営課題研究II	石井 裕明	30
経営課題研究II	山崎 由香里	34
クリティカルシンキング	向井 三貴	38
企業経営基礎研究I	伊藤 公哉	42
企業経営基礎研究II	俊野 雅司	46
統計学基礎研究	井上 潔司	50
経済経営史基礎研究	松本 貴典	54
経営戦略研究	浜松 翔平	58
マーケティング研究	井上 淳子	62
産業組織と企業戦略	平尾 由紀子	66
組織行動研究	山崎 由香里	70
人的資源管理研究	義村 敦子	74
財務会計研究	高橋 史郎	78
租税法基礎研究	伊藤 公哉	82
法人税法研究	成道 秀雄	86
多変量データ分析	田中 研太郎	90
地方公共政策研究	中神 康博	94
環境問題研究	田口 誠	98
福祉問題研究	丸山 桂	102
コーポレートファイナンス研究	時岡 規夫	106
上級理論研究(応用ミクロ経済分析3)	吉田 由寛	110
上級理論研究(応用ミクロ経済分析4)	吉田 由寛	114
学際分野特殊研究(力学系の理論と応用)	藤垣 芳文	118
Current Topics	山上 浩明	122

科目名	経済経営基礎演習		
教員名	田口 誠		
科目ナンバー	2030710001	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

テーマ：「大学院における研究活動の方法について学ぶ」
 大学院では学位の取得に向けて研究活動を進めていくことになりますが、この演習では、経営学の研究に必要な大学院レベルの教科書を理解する力を身につけるとともに、文献収集の方法や研究手法の基礎についても学びます。

到達目標

DP14・16（専門分野の知識・理解），DP17（論理的思考力），DP18（総合マネジメント力），DP19（他者との協働），DP20（表現力及び発信力）を実現するため、次の点を到達目標とする。
 1. 大学院レベルの教科書の内容を理解できるようにすること
 2. 研究領域に関する文献の収集方法を身につけること
 3. 基礎的な研究手法について知ること

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	イントロダクション ・授業の内容や進め方について説明する。	
	【復習】授業の内容を振り返り、今後の学修計画について考える。	120
第2回	経営学の基礎 ・経営学の各分野について	
	【予習】教科書の該当箇所を読む。 【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。	120
第3回	経営組織論（１） ・組織構造について	
	【予習】教科書の該当箇所を読む。 【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。	120

第4回	経営組織論（2） ・人的資源管理について	
	【予習】教科書の該当箇所を読む。 【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。	120
第5回	経営組織論（3） ・組織行動について	
	【予習】教科書の該当箇所を読む。 【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。	120
第6回	経営戦略論（1） ・経営戦略の理論について	
	【予習】教科書の該当箇所を読む。 【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。	120
第7回	経営戦略論（2） ・競争戦略の理論について	
	【予習】教科書の該当箇所を読む。 【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。	120
第8回	経営戦略論（3） ・経営戦略に関するその他の論点について	
	【予習】教科書の該当箇所を読む。 【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。	120
第9回	マーケティング（1） ・マーケティングに関する理論について	
	【予習】教科書の該当箇所を読む。 【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。	120

第10回	マーケティング（2） ・ブランド論について	
	【予習】教科書の該当箇所を読む。 【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。	120
第11回	消費者行動 ・消費者行動の理論について	
	【予習】教科書の該当箇所を読む。 【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。	120
第12回	ファイナンス ・コーポレート・ファイナンスについて	
	【予習】教科書の該当箇所を読む。 【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。	120
第13回	意思決定論 ・意思決定の理論について	
	【予習】教科書の該当箇所を読む。 【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。	120
第14回	その他の研究分野 ・社会的責任論、経営史などについて	
	【予習】教科書の該当箇所を読む。 【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。	120
第15回	全体のまとめ 質疑応答	
	【復習】授業で取り上げた箇所について教科書を読み返して理解する。これまでに学修した内容を整理する。	120

授業の方法

教科書を輪読する。
報告者の説明およびレジュメをもとにテキストの内容を確認し、ディスカッションする。

成績評価の方法

授業内での報告（50%）および提出物（50%）にもとづき総合的に評価する。
学期末試験は実施しない。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

次の点に着目し、その達成度によって評価する。

1. 教科書の内容を理解し、作成したレジュメにしたがって他者に論理的な説明ができる。
2. データベースを用いて、研究領域や研究キーワードに関連する文献の収集ができる。
3. 定性的・定量的な研究手法の基礎を理解している。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

授業で指示する。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。
オフィスアワーについてはポータルサイトで周知する。

科目名	経済課題研究 I		
教員名	井上 智夫		
科目ナンバー	2030711013	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要			
特定課題研究の成果をまとめるための授業です。受講生自身が設定した研究テーマに則して、先行研究論文の調査、それらが得た要旨の整理と相互関係などの整理を進め、毎回の授業で進捗を報告。それに対して指導教授がアドバイジングを行います。これらの活動を通じて中間報告会での発表と最終的な特定課題研究報告書を作成します。			

到達目標			
DP4・6（専門分野の知識・理解）、DP7（論理的思考力）、DP8（総合マネジメント力）を実現するため、以下を到達目標とする。 ①自らの問題意識に従って専門分野の知識、理解を深める ②問題解決の道筋を論理的に思考して研究を進める ③特定課題研究中間報告会で研究成果を発表し、質疑に対して適切に対応できる ④特定課題研究報告書をまとめる			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス		
	マクロ経済学の復習し、基礎知識を整理しておく		120
第2回	課題の決定①		
	既存研究をサーベイし、研究課題を絞り込む		120
第3回	課題の決定②		
	既存研究をサーベイし、研究課題を絞り込む		120

第4回	課題の決定③	
	既存研究をサーベイし、研究課題を絞り込む	120
第5回	課題の決定④	
	既存研究をサーベイし、研究課題を絞り込む	120
第6回	課題の決定⑤	
	既存研究をサーベイし、研究課題を絞り込む	120
第7回	研究成果の報告①	
	継続的に研究を行う	120
第8回	研究成果の報告②	
	継続的に研究を行う	120
第9回	研究成果の報告③	
	継続的に研究を行う	120

第10回	研究成果の報告④	
	継続的に研究を行う	120
第11回	研究成果の報告⑤	
	継続的に研究を行う	120
第12回	研究成果の報告⑥	
	継続的に研究を行う	120
第13回	研究成果の報告⑦	
	継続的に研究を行う	120
第14回	中間報告会の準備①	
	これまでの研究成果を整理する	120
第15回	中間報告会の準備②	
	これまでの研究成果を整理する	120

授業の方法

演習方式で進めます。受講生は毎回研究成果の報告を求められます。報告内容に対して次回までの課題や取り組みに対するアドバイスをを行います。

成績評価の方法

毎回の報告(80%)と提出された研究成果(20%)にもとづいて総合的に判断します。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準(学則第11条の2)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2. 以下を到達目標にもとづいて評価する。

- ①自らの問題意識に従って専門分野の知識, 理解を深める
- ②問題解決の道筋を論理的に思考して研究を進める
- ③特定課題研究中間報告会で研究成果を発表し、質疑に対して適切に対応できる
- ④特定課題研究報告書をまとめる

必要な予備知識／先修科目／関連科目

マクロ経済学, エコノメトリクス

テキスト

特に指定しない

参考書

必要に応じて紹介

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	経済課題研究II		
教員名	井上 智夫		
科目ナンバー	2030711014	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

特定課題研究の成果をまとめるための授業です。受講生自身が設定した研究テーマに則して、先行研究論文の調査、それらが得た要旨の整理と相互関係などの整理を進め、毎回の授業で進捗を報告。それに対して指導教授がアドバイジングを行います。これらの活動を通じて特定課題研究口頭発表の準備と特定課題研究報告書を作成します。

到達目標

DP4・6（専門分野の知識・理解）、DP7（論理的思考力）、DP8（総合マネジメント力）を実現するため、以下を到達目標とする。

- ①自らの問題意識に従って専門分野の知識、理解を深める
- ②問題解決の道筋を論理的に思考して研究を進める
- ③特定課題研究の成果を発表し、質疑に対して適切に対応できる
- ④特定課題研究報告書をまとめる

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	研究成果の報告①	
	継続的に研究を行う	120
第2回	研究成果の報告②	
	継続的に研究を行う	120
第3回	研究成果の報告③	
	継続的に研究を行う	120

第4回	研究成果の報告④	
	継続的に研究を行う	120
第5回	研究成果の報告⑤	
	継続的に研究を行う	120
第6回	研究成果の報告⑥	
	継続的に研究を行う	120
第7回	研究成果の報告⑦	
	継続的に研究を行う	120
第8回	研究成果の報告⑧	
	継続的に研究を行う	120
第9回	研究成果の報告⑨	
	継続的に研究を行う	120

第10回	研究成果の報告⑩	
	継続的に研究を行う	120
第11回	最終研究成果の作成①	
	最終研究成果の一部を提出する	120
第12回	最終研究成果の作成②	
	最終研究成果の一部を提出する	120
第13回	最終研究成果の作成③	
	最終研究成果の一部を提出する	120
第14回	最終研究成果の作成④	
	最終研究成果の一部を提出する	120
第15回	最終面接試験への準備	
	最終研究成果の一部を提出する	120

授業の方法

演習方式で進めます。受講生は毎回研究成果の報告を求められます。報告内容に対して次回までの課題や取り組みに対するアドバイスをを行います。

成績評価の方法

毎回の報告(80%)と提出された研究成果(20%)にもとづいて総合的に判断します。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準(学則第11条の2)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2. 以下を到達目標にもとづいて評価する。

- ①自らの問題意識に従って専門分野の知識, 理解を深める
- ②問題解決の道筋を論理的に思考して研究を進める
- ③特定課題研究中間報告会で研究成果を発表し、質疑に対して適切に対応できる
- ④特定課題研究報告書をまとめる

必要な予備知識／先修科目／関連科目

マクロ経済学, エコノメトリクス

テキスト

特に指定しない

参考書

必要に応じて紹介

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	経営課題研究Ⅰ		
教員名	上田 泰		
科目ナンバー	2130712013	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

修士課程の2年生を対象に、特定課題研究の成果をまとめるための授業です。各人の設定する特定課題研究のテーマに則して、中間発表と特定課題研究報告書の作成に向けて、毎回設定した課題を実行していきます。特定課題研究を完成させるためには、授業を受けるだけでなく、授業以外での各人の作業が重要になります。

到達目標

DP14・16（専門分野の知識・理解）、DP17（論理的思考力）、DP18（総合マネジメント力）を実現するため、以下の3点を到達目標とします。

- (1) 基本的な分野の基本的知識を獲得する。
- (2) 「特定課題研究」の研究枠組みを作成する。
- (3) 「特定課題研究」を完成させる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	【予習】人的資源管理論および組織行動論の基礎知識を整理しておく	120
第2回	課題の決定①	
	既存研究を読み、課題を絞り込む。	120
第3回	課題の決定②	
	既存研究を読み、課題を絞り込む。	120

第4回	課題の決定③	
	既存研究を読み、課題を絞り込む。	120
第5回	課題の決定④	
	既存研究を読み、課題を絞り込む。	120
第6回	課題の決定⑤	
	既存研究を読み、課題を決定する。	120
第7回	研究成果の報告①	
	継続的に研究を行う。	120
第8回	研究成果の報告②	
	継続的に研究を行う。	120
第9回	研究成果の報告③	
	継続的に研究を行う。	120

第10回	研究成果の報告④	
	継続的に研究を行う。	120
第11回	研究成果の報告⑤	
	継続的に研究を行う。	120
第12回	研究成果の報告⑥	
	継続的に研究を行う。	120
第13回	研究成果の報告⑦	
	継続的に研究を行う。	120
第14回	中間報告会の準備①	
	これまでの研究成果を整理する。	120
第15回	中間報告会の準備②	
	これまでの研究成果を整理する。	120

授業の方法

基本的に演習形式で進めます。受講生は毎回研究成果の報告を求められ、報告内容に基づいてディスカッションを行います。

成績評価の方法

毎回の報告40%、提出された研究成果60%により、総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

下記の3点の到達目標の達成度に基づいて評価する。

- (1)基本的な分野の基本的知識を獲得しているか。
- (2)「特定課題研究」の研究枠組みを作成しているか。
- (3)「特定課題研究」を完成させる方向にあるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

学部水準の経営学の知識を身に着けていることが前提となります。

テキスト

特に指定しません。

参考書

必要に応じて紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	経営課題研究 I		
教員名	石井 裕明		
科目ナンバー	2130712013	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
特定課題研究の成果をまとめるための授業です。自ら設定したテーマに基づき、研究を進めていきます。本課題研究では、マーケティングや消費者行動に関連する理論や先行研究を中心的に取り上げながら、中間発表と特定課題研究報告書の作成に向けた準備を行います。最終的には、それぞれのテーマに関する学術的な示唆や実務的な示唆を導いていく予定です。			
到達目標			
DP14・16（専門分野の知識・理解）、DP17（論理的思考力）、DP18（総合マネジメント力）を実現するため、以下を到達目標とする。 ①自らのテーマに関する専門的で広範な知識を習得していること ②自らの「特定課題研究」の全体像を論理的に説明できること ③特定課題研究中間報告会で成果を発表し、質疑応答の適切に対応できること			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス ・授業の進め方などについて ・研究倫理について		
	【予習】マーケティング関連科目の復習をして、基礎知識を整理しておく。		120
第2回	課題の決定①		
	【予習・復習】既存研究を読み、課題を絞り込む		120
第3回	課題の決定②		
	【予習・復習】既存研究を読み、課題を絞り込む		120

第4回	課題の決定③	
	【予習・復習】既存研究を読み、課題を絞り込む	120
第5回	課題の決定④	
	【予習・復習】既存研究を読み、課題を絞り込む	120
第6回	課題の決定⑤	
	【予習・復習】既存研究を読み、課題を絞り込む	120
第7回	研究成果の報告①	
	【予習・復習】継続的に研究を行う	120
第8回	研究成果の報告②	
	【予習・復習】継続的に研究を行う	120
第9回	研究成果の報告③	
	【予習・復習】継続的に研究を行う	120

第10回	研究成果の報告④	
	【予習・復習】継続的に研究を行う	120
第11回	研究成果の報告⑤	
	【予習・復習】継続的に研究を行う	120
第12回	研究成果の報告⑥	
	【予習・復習】継続的に研究を行う	120
第13回	研究成果の報告⑦	
	【予習・復習】継続的に研究を行う	120
第14回	中間報告会の準備①	
	【予習・復習】これまでの研究成果を整理する	120
第15回	中間報告会の準備②	
	【予習・復習】これまでの研究成果を整理する	120

授業の方法

基本的に演習形式で進めます。受講生は毎回、研究成果の報告を求められ、報告内容に基づいてディスカッションを行います。事前の準備学習をしっかりと進めるようにしてください。

成績評価の方法

毎回の報告（40%）と研究成果（60%）により、総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

以下の到達目標の達成度に基づいて評価します。

- ①自らのテーマに関する専門的で広範な知識を習得できているか
- ②自らの「特定課題研究」の全体像を論理的に説明できるか
- ③特定課題研究中間報告会で十分な発表ができる水準に達しているか

必要な予備知識／先修科目／関連科目

学部マーケティング関連科目に関する知識を身に付けていることが前提となります。

テキスト

特に指定しません。

参考書

課題に応じて、適宜、紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	経営課題研究 I		
教員名	山崎 由香里		
科目ナンバー	2030712013	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

特定課題研究の成果をまとめるための授業です。自身が関心のある社会問題や事象について、さまざまな情報源を通じて把握、理解を深めます。授業内での議論なども踏まえて問題をテーマとして設定して研究を進めます。9月に行われる中間報告会での発表にむけて成果を制作していきます。

到達目標

DP4・6（専門分野の知識・理解）、DP7（論理的思考力）、DP8（総合マネジメント力）を実現するため、以下を到達目標とする。
 ①自らの問題意識に従って、専門分野の知識、理解を深めるとともに、問題解決の道筋を論理的に思考して研究を進め、特定課題研究報告書をまとめる。
 ②特定課題研究中間報告会で研究成果を発表し、質疑に対して適切に対応できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	経済経営基礎演習での学修内容の復習	60
第2回	研究テーマの検討1	
	関連文献の収集と読破	60
第3回	研究テーマの検討2	
	関連文献の収集と読破	60

第4回	研究テーマの検討3	
	関連文献の収集と読破	60
第5回	研究テーマの検討4	
	関連文献の収集と読破	60
第6回	研究テーマの検討5	
	関連文献の収集と読破	60
第7回	研究テーマの議論1	
	研究制作（授業での議論のまとめ）	60
第8回	研究テーマの議論2	
	研究制作（授業での議論のまとめ）	60
第9回	研究テーマの議論3	
	研究制作（授業での議論のまとめ）	60

第10回	研究テーマの議論4	
	研究制作（授業での議論のまとめ）	60
第11回	研究テーマの議論5	
	研究制作（授業での議論のまとめ）	60
第12回	中間発表の予備発表1	
	研究のまとめと報告資料作成	120
第13回	中間発表の予備発表2	
	研究のまとめと報告資料作成	120
第14回	中間発表の予備発表3	
	研究のまとめと報告資料作成	120
第15回	中間発表の予備発表4 総括	
	研究のまとめと報告資料作成	120

授業の方法

基本的に演習形式で進めます。受講生は毎回研究成果の報告と提出が求められます。報告内容に基づいてディスカッションを行います。

成績評価の方法

毎回の報告と提出された研究成果によって総合的に評価します。毎回の報告40%、提出された研究成果60%の割合で評価します。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

経営学の基礎知識全般／経済経営基礎演習／自分のテーマに関連する科目

テキスト

特に指定しません。

参考書

適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	経営課題研究Ⅱ		
教員名	上田 泰		
科目ナンバー	2130712014	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
特定課題研究の成果をまとめるための授業です。毎回提出する課題をまとめて整理し、特定課題研究口頭発表の準備と特定課題研究報告書の作成を行います。 特定課題研究を完成させることはもちろん重要ですが、それに関して口頭でもしっかりと発表できることもまた重要です。			
到達目標			
DP14・16（専門分野の知識・理解）、DP17（論理的思考力）、DP18（総合マネジメント力）を実現するため、以下の3点を到達目標とします。			
(1)基本的な分野の基本的知識を獲得する。 (2)「特定課題研究」の研究枠組みを作成する。 (3)「特定課題研究」を完成させる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	中間報告会の最終準備		
	【予習】現時点での研究成果を整理してまとめる。	120	
第2回	研究成果の報告①		
	【予習】継続的に研究を行う。	120	
第3回	研究成果の報告②		
	【予習】継続的に研究を行う。	120	

第4回	研究成果の報告③	
	【予習】継続的に研究を行う。	120
第5回	研究成果の報告④	
	【予習】継続的に研究を行う。	120
第6回	研究成果の報告⑤	
	【予習】継続的に研究を行う。	120
第7回	研究成果の報告⑥	
	【予習】継続的に研究を行う。	120
第8回	研究成果の報告⑦	
	【予習】継続的に研究を行う。	120
第9回	研究成果の報告⑧	
	【予習】継続的に研究を行う。	120

第10回	研究成果の報告⑨	
	【予習】継続的に研究を行う。	120
第11回	研究成果の報告⑩	
	【予習】継続的に研究を行う。	120
第12回	最終研究成果の作成①	
	【予習】最終研究成果の一部を提出する。	120
第13回	最終研究成果の作成②	
	【予習】最終研究成果の一部を提出する。	120
第14回	最終研究成果の作成③	
	【予習】最終研究成果の一部を提出する。	120
第15回	最終研究成果の作成④と最終面接試験への準備	
	【予習】最終研究成果の一部を提出する。 【復習】最終面接試験に関する指導をふりかえり、習得しておくこと。	120

授業の方法

基本的に演習形式で進めます。受講生は毎回研究成果の報告を求められ、報告内容に基づいてディスカッションを行います。

成績評価の方法

毎回の報告40%、提出された研究成果60%により、総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

以下の3点の到達目標の達成度に基づいて評価する。

- (1)基本的な分野の基本的知識を獲得しているか。
- (2)「特定課題研究」の研究枠組みを作成できたか。
- (3)「特定課題研究」を完成させたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

学部水準の経営学の専門知識を身に付けていることが前提となります。

テキスト

特に指定しません。

参考書

必要に応じて紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	経営課題研究Ⅱ		
教員名	石井 裕明		
科目ナンバー	2130712014	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
特定課題研究の成果をまとめるための授業です。自ら設定したテーマに基づき、研究を進めていきます。本課題研究では、マーケティングや消費者行動に関連する理論や先行研究を中心的に取り上げながら、中間発表と特定課題研究報告書の作成に向けた準備を行います。最終的には、それぞれのテーマに関する学術的な示唆や実務的な示唆を導いていく予定です。			
到達目標			
DP14・16（専門分野の知識・理解）、DP17（論理的思考力）、DP18（総合マネジメント力）を実現するため、以下を到達目標とする。 ①自らのテーマに関する全般的な知識を習得していること ②自らの「特定課題研究」の全体像を論理的に説明できること ③「特定課題研究」を完成させること			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	中間報告会の最終準備		
	【予習・復習】現時点での研究成果を整理しておく	120	
第2回	研究成果の報告①		
	【予習・復習】継続的に研究を行う	120	
第3回	研究成果の報告②		
	【予習・復習】継続的に研究を行う	120	

第4回	研究成果の報告③	
	【予習・復習】継続的に研究を行う	120
第5回	研究成果の報告④	
	【予習・復習】継続的に研究を行う	120
第6回	研究成果の報告⑤	
	【予習・復習】継続的に研究を行う	120
第7回	研究成果の報告⑥	
	【予習・復習】継続的に研究を行う	120
第8回	研究成果の報告⑦	
	【予習・復習】継続的に研究を行う	120
第9回	研究成果の報告⑧	
	【予習・復習】継続的に研究を行う	120

第10回	研究成果の報告⑨	
	【予習・復習】継続的に研究を行う	120
第11回	研究成果の報告⑩	
	【予習・復習】継続的に研究を行う	120
第12回	最終研究成果の作成①	
	【予習・復習】最終研究成果を作成する	120
第13回	最終研究成果の作成②	
	【予習・復習】最終研究成果を作成する	120
第14回	最終研究成果の作成③	
	【予習・復習】最終研究成果を作成する	120
第15回	最終研究成果の作成④と最終面接試験への準備	
	【予習】最終研究成果を作成する 【復習】最終面接試験に向け、最終研究成果に関する理解を深める	120

授業の方法

基本的に演習形式で進めます。受講生は毎回、研究成果の報告を求められ、報告内容に基づいてディスカッションを行います。事前の準備学習をしっかりと進めるようにしてください。

成績評価の方法

毎回の報告（40%）と研究成果（60%）により、総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

以下の到達目標の達成度に基づいて評価します。

- ①自らのテーマに関する専門的で広範な知識を習得できているか
- ②自らの「特定課題研究」の全体像を論理的に説明できるか
- ③「特定課題研究」として十分な最終成果が作成できたか

必要な予備知識／先修科目／関連科目

学部マーケティング関連科目に関する知識を身に付けていることが前提となります。

テキスト

特に指定しません。

参考書

課題に応じて、適宜、紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	経営課題研究II		
教員名	山崎 由香里		
科目ナンバー	2030712014	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

特定課題研究の成果をまとめるための授業です。自身が関心のある社会問題や事象について、さまざまな情報源を通じて把握、理解を深めます。授業内での議論なども踏まえて問題をテーマとして設定して研究を進めます。最終審査での口頭試問の内容を完成させ、最終的な特定課題研究報告書を作成します。

到達目標

DP4・6（専門分野の知識・理解）、DP7（論理的思考力）、DP8（総合マネジメント力）を実現するため、以下を到達目標とする。

- ①自らの問題意識に従って、専門分野の知識、理解を深めるとともに、問題解決の道筋を論理的に思考して研究を進め、特定課題研究報告書をまとめる。
- ②特定課題研究の報告書提出ならびに口頭試問で研究成果を発表し、質疑に対して適切に対応できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	前期内容の復習	60
第2回	課題研究の精緻化1	
	研究の制作（授業での議論のまとめ）	60
第3回	課題研究の精緻化2	
	研究の制作（授業での議論のまとめ）	60

第4回	課題研究の精緻化3	
	研究の制作（授業での議論のまとめ）	60
第5回	課題研究の精緻化4	
	研究の制作（授業での議論のまとめ）	60
第6回	課題研究の精緻化5	
	研究の制作（授業での議論のまとめ）	60
第7回	課題研究の精緻化6	
	研究の制作（授業での議論のまとめ）	60
第8回	課題研究の精緻化7	
	研究の制作（授業での議論のまとめ）	60
第9回	課題研究の精緻化8	
	研究の制作（授業での議論のまとめ）	60

第10回	課題研究の精緻化9	
	研究の制作（授業での議論のまとめ）	60
第11回	課題研究の精緻化10	
	研究の制作（授業での議論のまとめ）	60
第12回	口頭発表の準備1	
	研究の制作（授業での議論のまとめ）	120
第13回	口頭発表の準備2	
	研究の制作（授業での議論のまとめ）	120
第14回	口頭発表の準備3	
	研究の制作（授業での議論のまとめ）	120
第15回	口頭発表の準備4 総括	
	研究の制作（授業での議論のまとめ）	120

授業の方法

基本的に演習形式で進めます。受講生は毎回研究成果の報告と提出が求められます。報告内容に基づいてディスカッションを行います。

成績評価の方法

毎回の報告と提出された研究成果によって総合的に評価します。毎回の報告40%、提出された研究成果60%の割合で評価します。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

経営学の基礎知識全般／経済経営基礎演習／自分のテーマに関連する科目

テキスト

特に指定しません

参考書

適宜紹介します

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する

科目名	クリティカルシンキング		
教員名	向井 三貴		
科目ナンバー	2030713001	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

この授業では、物事を論理的・構造的にとらえる考え方や手法を学びます。具体的には、問題解決や新規企画立案等を論理的なプロセスで行う、実践的なスキルを習得します。この中で、論理的な思考方法やアプローチ、判断や意思決定の根拠となる情報収集・加工技術も習得します。また、企業の問題点を論理的に解決する、ケーススタディ演習を行います。さらに、グループでのディスカッションや演習を通して、コミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルの向上を図ります。

到達目標

DP7（論理的思考力）

- ①論理的な思考方法を身につける。
- ②問題や課題を論理的に解決できる。
- ③根拠を示して論理的に説得できるプレゼンテーションスキルを身につける。
- ④グループディスカッション・コミュニケーションスキルを身につける。
- ⑤グループディスカッションのファシリテータができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習・復習、課題の仕方を説明する。 クリティカルシンキングの意義とメリット ・クリティカルシンキングとロジカルシンキングの思考方法を学修する。	
	(復習) ・クリティカルな思考方法を理解しておく。	60
第2回	ロジカルシンキングのツール1/2 マトリックス（フレームワーク思考ツール） ・ロジカルシンキングのツールであるマトリックスについて学修する。 課題1（ポジショニング） 課題2（swotクロス分析）	
	(復習) ・課題1、2の準備をする。	60
第3回	ロジカルシンキングのツール2/2 ロジックツリー（要素分解ツール） ・ロジックツリーの種類（what, why, howツリー）と分析方法について学修する。 プレゼンテーション （課題1ポジショニング課題2swotクロス分析） 課題3（why, howツリー）	
	(復習) ・課題3の準備をする。	60

第4回	情報の意味と役割 ・クリティカルシンキングの根拠として活用する情報の種類と特性について学修する。 プレゼンテーション（課題3 why. howツリー） 課題4（トレンドの根拠）	
	（復習） ・課題4の準備をする。	60
第5回	クリティカルシンキングのプロセス（自己分析と キャリア開発） ・自己のキャリア開発を題材にSWOT分析を活用したプロセスを学修する。 課題5（キャリア開発） ケーススタディ課題1	
	（復習） ・課題5の準備をする。	60
第6回	ディスカッション方法 ・ブレインストーミングのルール・方法、ディスカッション時の発言の仕方を学修する。 グループコミュニケーションルールの作成 プレゼンテーション（課題4 トrendの根拠） ケーススタディディスカッション1/2	
	（予習） ・ケーススタディを熟読する。	60
第7回	クリティカルシンキングのプロセス（新規企画） ・新規企画を行う際のプロセスと根拠について学修する。 プレゼンテーション（課題5 キャリア開発） 課題6（新規企画）	
	（復習） ・課題6の準備をする。	60
第8回	ケーススタディ発表&ディスカッション	
	（予習） ・ケーススタディの解答を考える。	60
第9回	問題解決技法 ・様々な問題を論理的に解決するための方法を学修する。 プレゼンテーション（課題6 新規企画） グループ課題（問題解決） ・問題や課題をグループで解決する。	
	（復習） ・問題解決の課題を考える。	60

第10回	問題解決 グループ実習1/2	
	(予習) ・問題を分析してくる。	60
第11回	問題解決 グループ実習2/2	
	(予習) ・解決策案を考える。	60
第12回	プレゼンテーション（問題解決）とQ&A ケーススタディ課題2	
	(予習) ・グループプレゼンテーションの練習をする。 (復習) ・ケーススタディを熟読する。	60
第13回	ケーススタディ グループ演習	
	(予習) ・ケーススタディの解答を検討する。	60
第14回	グループ発表とQ&A、ディスカッション	
	(予習) ・グループプレゼンテーションの練習をする。	60
第15回	授業のまとめ	
	(予習) ・クリティカルシンキングの意義を復習する。	60

授業の方法

授業は講義、グループワーク、ケーススタディ演習、プレゼンテーションなど学生参画型で進めます。学生は、グループワークに積極的に参加することが必要です。また、プレゼンテーションの準備はもちろん、他の学生のプレゼン評価を行うなど双方向の授業を達成するために意欲的に取り組むことが重要です。

成績評価の方法

課題 (60%) グループワーク (20%) 授業中の発言・質問、予習・復習・プレゼンや課題の積極的な取り組みを総合評価 (20%)

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

以下の点に着目して、その達成度により評価します。

- ①ロジカルシンキングのツールを理解し、実践に応用できる。
- ②クリティカルシンキングのプロセスを理解し、実践に応用できる。
- ③物事の全体を把握し、個々の事象を分析できる。
- ④グループワークに積極的に参加している。
- ⑤説得力のあるプレゼンテーションができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

適宜、指示します。

テキスト

オリジナルテキスト

参考書

適宜、指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。また、随時eメール(miki.mukai@gmail.com)でも受け付けます。

科目名	企業経営基礎研究Ⅰ		
教員名	伊藤 公哉		
科目ナンバー	2130721008	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
企業の経営戦略の成否について広い視野から考察を行います。たとえば、現在のところ好調な企業であっても、たまたま時流に乗って好調なのか、それとも超過利潤を生むビジネスモデルが構築されているのか等、成功要因の本質を見極める必要があります。企業情報をコンペティタ（存在する場合）との比較や時系列による推移分析を行うことで、成功の手がかりが得られるかもしれません。もともと、競争市場を前提とする従来の一般的なビジネスモデルによる理論・理由付けでは説明が困難な場合もあります。超過利潤を得ている企業のなかには、そもそも市場での競争から回避することに成功している場合もあるからです。市場競争を制限するフォーマルなルール（法令）の存在、すなわち、いわゆる免許事業や特許権等の独占的な権利を政府から付与されている場合が分かりやすい例といえます。さらに、経済主体の行動に影響を与え得るルールのなかには企業や業界団体などが自らつくり社会が受け入れているインフォーマルなルール（消費者の潜在意識のなかで慣習や常識としてとくに疑いをもつことなしに受け入れられている、消費者の視野を狭めているものを含む）も数多く存在し、フォーマルなルール以上に企業の利益に貢献している場合もあります。そこで、柔軟な思考により広い視野から、企業による超過利潤の源泉を追究することとします。			
到達目標			
DP14・16（専門分野の知識・理解）、DP17（論理的思考力）を実現するため、以下を到達目標とする。 ① 企業や産業を適切な手法で分析することができる。 ② 自分の考えを論理立てて正しく伝えることができる。 ③ 柔軟な思考と広い視野から物事の本質を洞察することができる。 ④ 課題を把握・分析し良い方向性を提案することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス（講義の進め方など） 自己紹介（関心のあること、研究課題の紹介を含む）		
	【予習】 自己紹介用のコンテンツ（たとえばPower Pointなど）を用意しておく。なお、専門的な研究課題等は、ポイントを絞り、できるだけ分かりやすく説明すること。		60
第2回	企業情報の情報源とリサーチ手法 経営戦略と会計情報による裏付け		
	【復習】 授業の振り返りを行い、疑問点などは図書館等を利用して調べておく。		60
第3回	企業経営に関する基本書の輪読（報告者担当者によるプレゼンテーション）		
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。		90

第4回	企業経営に関する基本書の輪読（報告者担当者によるプレゼンテーション）	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第5回	企業経営に関する基本書の輪読（報告者担当者によるプレゼンテーション）	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第6回	好調企業の成功要因の分析（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第7回	好調企業の成功要因の分析（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第8回	好調企業の成功要因の分析（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第9回	好調企業の成功要因の分析（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90

第10回	好調企業の成功要因の分析（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第11回	好調企業の成功要因の分析（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第12回	好調企業の成功要因の分析（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第13回	不調企業の課題分析と改善提案（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第14回	不調企業の課題分析と改善提案（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90
第15回	不調企業の課題分析と改善提案（報告者担当者によるプレゼンテーション） 全体でのディスカッション	
	【予習】 報告担当者は、十分なりサーチを行い、プレゼン用のコンテンツ（レジュメやPower Point 等）を準備しておく。 【復習】 他の受講者からのフィードバック等を参考に理解の整理を行う。	90

授業の方法

演習形式（受講者によるリサーチとプレゼンテーション及びディスカッション）が中心になります。
なお、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。

成績評価の方法

平常点（ディスカッションへの貢献など50%）及び課題の評価（プレゼンテーション50%）。試験は実施しません。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ① 企業や産業を適切な手法で分析することができる。
- ② 自分の考えを論理立てて正しく伝えることができる。
- ③ 柔軟な思考と広い視野から物事の本質を洞察することができる。
- ④ 課題を把握・分析し良い方向性を提案することができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくにありません（会計などの知識があれば尚可）。

テキスト

初回に、受講者の受講の目的及び理解度等を勘案し、受講者と相談のうえ決定することとします。

参考書

授業のなかで、適宜、紹介します。

たとえば、競争市場を前提とするビジネスモデルと会計情報の関係について、大津広一『会計力と戦略的思考力（新版）』日本経済新聞社、同『会計力と戦略的思考力 ビジネスモデル編』（日本経済新聞社）（いずれも、日経ビジネス人文庫）などが参考になると思います。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内ポータルサイトで周知します。

科目名	企業経営基礎研究II		
教員名	俊野 雅司		
科目ナンバー	2130721009	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

本講座では、コーポレート・ガバナンスに関する文献調査を中心に講義を進め、最後は、企業経営に関する受講者の今後の研究計画を策定するところまでをカバーします。最近では、日本企業の低い収益性や再三の不祥事の発生などを背景に、日本企業の経営のあり方について再検討しようとする動きが見られます。その中で、株式会社制度そのものの歴史や仕組みに関する議論から始めて、コーポレート・ガバナンス（企業統治）のあり方に関する考え方の国際比較や変遷について学習します。

講義は、受講者による基本テキスト（コーポレート・ガバナンスの経営学）の発表を中心に進め、2014年に公表された伊藤レポート（日本企業のガバナンスのあり方に関する再考を求める経済産業省主導の研究会による報告書）の講読も行います。最後に、2001年に経営破綻したアメリカの元大手エネルギー会社エンロンのケーススタディを実施し、受講者による今後の研究計画の発表を行って、締めくくります。また、毎回、講義の冒頭には、新聞の読み合わせ（担当者が順番に関心のある新聞記事を発表）を行い、企業経営や経営環境に関する最新動向のフォローに努めます。

到達目標

DP14・16（専門分野の知識・理解）、DP17（論理的思考力）

コーポレート・ガバナンスに関する議論の全体像を理解することが主な目標です。企業経営の研究においては代表的な学習方法の1つであるケーススタディも体験します。また、新聞の読み合わせを通じて、企業の経営環境について関心を持ってニュースを確認する習慣を身につけることも重要な目標です。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	イントロダクション - 自己紹介 - 講義の進め方の説明 - 新聞読み合わせの順番、文献発表の分担の検討 - 新聞の読み合わせ（講師） 『コーポレート・ガバナンスの経営学』の序章の説明（講師） - 伊藤レポートとエンロンのケーススタディについて - 研究計画について	
	【予習・復習】 基本テキスト『コーポレート・ガバナンスの経営学』を入手して、序章を読んでおくこと。	60
第2回	『コーポレート・ガバナンスの経営学』第1章「株式会社と会社統治論」 - 新聞の読み合わせ - 第1章の発表	
	【予習・復習】 『コーポレート・ガバナンスの経営学』の第1章を読んでおくこと。	60
第3回	『コーポレート・ガバナンスの経営学』第2章「株式会社の仕組みと会社統治」 - 新聞の読み合わせ - 第2章の発表	
	【予習・復習】 『コーポレート・ガバナンスの経営学』の第2章を読んでおくこと。	60

第4回	『コーポレート・ガバナンスの経営学』 第3章「アングロサクソン型の会社統治－米国を中心に」 ・新聞の読み合わせ ・第3章の発表	
	【予習・復習】 『コーポレート・ガバナンスの経営学』の第3章を読んでおくこと。	60
第5回	『コーポレート・ガバナンスの経営学』 第4章「ライン型の会社統治－日本を中心に」 ・新聞の読み合わせ ・第4章の発表	
	【予習・復習】 『コーポレート・ガバナンスの経営学』の第4章を読んでおくこと。	60
第6回	『コーポレート・ガバナンスの経営学』 第5章「日本の会社統治の過去」 ・新聞の読み合わせ ・第5章の発表	
	【予習・復習】 『コーポレート・ガバナンスの経営学』の第5章を読んでおくこと。	60
第7回	『コーポレート・ガバナンスの経営学』 第6章「日本の会社統治の現在－日本が間違った時代」 ・新聞の読み合わせ ・第6章の発表	
	【予習・復習】 『コーポレート・ガバナンスの経営学』の第6章を読んでおくこと。	60
第8回	『コーポレート・ガバナンスの経営学』 第7章「コーポレート・ガバナンスと資本コスト」 ・新聞の読み合わせ ・第7章の発表	
	【予習・復習】 『コーポレート・ガバナンスの経営学』の第7章を読んでおくこと。	60
第9回	『コーポレート・ガバナンスの経営学』 第8章「コーポレート・ガバナンスと事業投資」 ・新聞の読み合わせ ・第8章の発表	
	【予習・復習】 『コーポレート・ガバナンスの経営学』の第8章を読んでおくこと。	60

第10回	『コーポレート・ガバナンスの経営学』第9章「コーポレート・ガバナンスと資本政策」 ・新聞の読み合わせ ・第9章の発表	
	【予習・復習】 『コーポレート・ガバナンスの経営学』の第9章を読んでおくこと。	60
第11回	『コーポレート・ガバナンスの経営学』第10章「日本企業の会社統治のもう1つの姿－プレイヤーとしての従業員・親会社」 ・新聞の読み合わせ ・第10章の発表	
	【予習・復習】 『コーポレート・ガバナンスの経営学』の第10章を読んでおくこと。	60
第12回	『コーポレート・ガバナンスの経営学』第11章「内部統制と会社統治」 ・新聞の読み合わせ ・第11章の発表	
	【予習・復習】 『コーポレート・ガバナンスの経営学』の第11章を読んでおくこと。	60
第13回	「持続的成長への競争力とインセンティブ～企業と投資家の望ましい関係構築～」プロジェクト最終報告書（伊藤レポート） ・新聞の読み合わせ ・伊藤レポートの発表	
	【予習・復習】 伊藤レポートを読んでおくこと。	60
第14回	ケーススタディ「エンロン崩壊」 ・新聞の読み合わせ ・ケースのテーマの発表	
	【予習・復習】 ケースの発表準備を行うこと。	120
第15回	研究計画の発表 ・新聞の読み合わせ ・研究計画の発表	
	【予習】 研究計画を取りまとめること。	120

授業の方法

順番を決めて、新聞の読み合わせ（担当者が関心のある新聞記事を発表）とテキストの講読（担当者が要約を作成し、概要を説明）を行う。
講義内容を踏まえて、企業経営に関する研究計画を作成し、発表する。

成績評価の方法

新聞の読み合わせを10%、テキストの発表を50%、研究計画を10%、講義への積極的な参加状況を30%の配分で評価を行う。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

主に、以下の点に関する到達度に応じて評価する。

- ・コーポレート・ガバナンスに関する議論を理解できているか
- ・ケーススタディを的確に行うことができたか
- ・新聞の読み合わせを通じて、企業の経営環境について理解する能力を身につけているか

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

『コーポレート・ガバナンスの経営学』加護野忠男・砂川伸幸・吉村典久、有斐閣、2010年
「持続的成長への競争力とインセンティブ～企業と投資家の望ましい関係構築～」プロジェクト最終報告書（伊藤レポート）、2014年
「エンロン崩壊」ステュアート・ハミルトン、日本ケースセンター（IMD-1-0195-JP）、2009年

参考書

『リーディングス 日本の企業システム第Ⅰ期』（第1巻「企業とは何か」、第2巻「組織と戦略」、第3巻「人的資源」、第4巻「企業と市場」）、有斐閣、1993年
『リーディングス 日本の企業システム第Ⅱ期』（第1巻「組織とコーディネーション」、第2巻「企業とガバナンス」、第3巻「戦略とイノベーション」、第4巻「組織能力・知識・人材」、第5巻「企業と環境」）、有斐閣、2005年
『コーポレート・ファイナンス入門』砂川伸幸、日本経済新聞社（日経文庫）、2004年
『コーポレート・ファイナンス』新井富雄・高橋文郎・芹田敏夫、中央経済社、2016年

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	統計学基礎研究		
教員名	井上 潔司		
科目ナンバー	2030721006	単位数	2
配当年度		開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
この講義では、統計学の初学者を対象に、統計的な考え方を初歩から解説することにより、統計学の体系的知識を習得することを目標とする。今後の研究活動に必要な基本事項に重点を置き、特に記述統計学と推測統計学の基本について学習する。また、学生が自発的に課題を設定し、その解決に向けて適切なデータを選択し、正しい分析結果を導出するという一連のプロセスを体系的に学ぶ。			
到達目標			
DP4・6（専門分野の知識・理解）、DP7（論理的思考力）を実現するため、以下を到達目標とする。 統計学の重要事項を学び、基本的な考え方の修得を目標とする。 さまざまな統計量の定義を学び、その意味を理解する。 統計的推定・検定の基本的な考え方を理解し、実際に適用できる能力を養う。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・統計学を学修するうえでの基本的な考え方を説明する。		
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義の内容を把握する。		60分
第2回	基本統計量 1 ・データの特徴を表す代表値について学ぶ。 ・平均、分散、標準偏差の導出方法とその意味について学修する。		
	【予習】平均、分散、標準偏差について理解しておく。 【復習】計算機を用いた導出の手順を確認する。		90分
第3回	基本統計量 2 ・様々なデータの表し方を学修する。 ・様々なデータの代表値の導出方法とその意味について学修する。		
	【予習】データの様々な代表値について理解しておく。 【復習】計算機を用いた導出方法を確認する。		90分

第4回	相関分析 ・ 2次元データの関係をとらえる方法を学ぶ。 ・ 共分散と相関係数の導出方法を修得する。	
	【予習】単回帰モデルの意味について理解しておく。 【復習】単回帰モデル導出方法を理解し、その手順を計算機上で確認する。	90分
第5回	単回帰分析 ・ 2次元データの因果関係をとらえる方法を学ぶ。 ・ 最小2乗法について学び、回帰直線の導出方法を修得する。	
	【予習】重回帰モデルの意味について理解しておく。 【復習】単回帰モデル導出方法を理解し、その手順を計算機上で確認する。	90分
第6回	重回帰分析 ・ 多次元データの因果関係をとらえる方法を学ぶ。 ・ 多次元での最小2乗法について学び、回帰平面の導出方法を修得する。	
	【予習】回帰モデルのあてはまりのよさを理解する。 【復習】回帰結果を理解し、計算機上で決定係数の導出方法を確認する。	90分
第7回	決定係数 ・ 回帰分析の結果から、あてはまりのよさの考え方を学ぶ。 ・ 決定係数の導出方法とその意味について学ぶ。	
	【予習】重回帰モデルの意味について理解しておく。 【復習】単回帰モデル導出方法を理解し、その手順を計算機上で確認する。	90分
第8回	数量化Ⅰ類 ・ 数量化の概念を学ぶ。 ・ ダミー変数のある回帰モデルの構築の仕方を学修する。	
	【予習】数量化Ⅰ類について理解しておく。 【復習】ダミー変数の作り方を確認する。	90分
第9回	モデル選択 ・ 情報量規準の概念を学ぶ。 ・ 最適モデルの選び方を修得する。	
	【予習】赤池情報量規準を理解する。 【復習】計算機上でのモデル選択プロセスを確認する。	90分

第10回	曲線回帰モデル ・ 様々な回帰モデルの構築方法を学ぶ。 ・ 情報量規準を用いたモデル選択方法を学修する。	
	【予習】 曲線回帰モデルについて理解する。 【復習】 曲線回帰モデルにおけるモデル選択プロセスを確認する。	90分
第11回	統計的推定理論 1 ・ 推定の考え方を修得する。 ・ 点推定と区間推定を学修する。	
	【予習】 記述統計と推測統計の違いを理解する。 【復習】 最尤推定量の導出方法と信頼区間の構成方法を確認する。	90分
第12回	統計的推定理論 2 ・ 2 標本問題における推定方法を学ぶ。 ・ 様々なタイプの推測問題の考え方を修得する。	
	【予習】 2 標本推定問題について理解する。 【復習】 区間推定の考え方を理解し、信頼区間の導出方法を確認する。	90分
第13回	統計的検定理論 1 ・ 仮説検定の考え方を修得する。 ・ 検定結果に対する判断を学修する。	
	【予習】 推定と検定の違いについて理解しておく。 【復習】 検定の手順および、2 種類の誤りについて理解する。	90分
第14回	統計的検定理論 2 ・ 2 標本問題における検定方法を学ぶ。 ・ 様々なタイプの検定問題の考え方を修得する。	
	【予習】 2 標本検定問題について理解する。 【復習】 検定統計量の構成方法および、検定の手順について確認する。	90分
第15回	まとめ（レポートのまとめ方） ・ 授業のまとめ ・ レポート作成指導	
	【復習】 この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。	60分

授業の方法

講義 + 演習 形式での授業を行う。統計学の基本事項を解説した後、パソコンを用いての演習を行う。各自の興味のあるテーマを選び、自分で図書館やインターネットで調べたことを定期的に発表し、それらについて学生同士で討論し、最後に結果をレポートにまとめて提出する。また、授業と並行して輪読を行う予定でいる。

成績評価の方法

平常点(全体の6割)とレポート(全体の4割)によって成績をつける。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準(学則第11条の2)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

- ・ 様々なデータのまとめ方を理解できているか。
- ・ 分析結果の解釈が正しくできるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

統計学基礎、基礎解析の知識があることが望ましい。

テキスト

授業中に随時紹介する。

参考書

授業中に随時紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	経済経営史基礎研究		
教員名	松本 貴典		
科目ナンバー	2030721007	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
世界はどのような軌跡を描いて経済発展を遂げてきたのだろうか。そして、これから先どうなるのだろうか。 「歴史に学び、歴史の理解をもって未来を解く鍵とする」ことによって、世界経済の過去と現在と未来を考えていこうというのが、この授業のテーマである。 授業では、現在最も優秀な経済学者の一人で、昨年（2015年）にノーベル経済学賞を受賞したアンガス・ディートンの力作を素材にしなが ら、日本を含む世界の経済発展を決定づけた要因は何なのかについて学ぶ。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）、DP6（専門分野の知識・理解）、DP7（総合マ ネジメント力）を実現するため、以下を到達目標とする。 約1万年前に長い氷河期が終わり、人類は定着農耕を始めた。そこには先進国も低開発国もなかった。われわれは1万年前は同じスター ト・ラインに立っていたのに、なぜ今日、少数の豊かな国と多数の貧しい国とに分かれてしまったのか。世界各国間の貧富を決める要因は 何なのか。経済発展と幸福、経済発展と健康、経済発展と所得の関係はどうなっているのか。 この演習では、これらの点について、多面的に学習する。これを通じて、受講者諸君は、今日のこの大きな格差の現状と問題を理解でき ようになるだろう。また、どこを正せばその国は経済成長を始めるのかも提言することができるだろう。 「経済発展を分ける要因は何なのか」の答えは、「経済理論の中にも、経済政策の中にもない。答えは経済史の中に隠されている」。受 講者諸君には、それを見つけてもらいたい。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	担当者によるイントロダクション：		
	復習としては、テキストの重要部分の読み直し。		予習に60分、復習に60分。
第2回	第1章「世界の幸福について」の内容報告		
	予習として、テキストの該当箇所を事前に読んで授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直し。		予習に60分、復習に60分。
第3回	第1章についてのディスカッション		
	予習として、テキストの該当箇所を再読して授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直しと議論の総括。		予習に60分、復習に60分。

第4回	第2章「有史以前から1945年まで」についての内容報告	
	予習として、テキストの該当箇所を事前に読んで授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直し。	予習に60分、復習に60分。
第5回	第2章についてのディスカッション	
	予習として、テキストの該当箇所を再読して授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直しと議論の総括。	予習に60分、復習に60分。
第6回	第3章「熱帯地方における死からの脱出」についての内容報告	
	予習として、テキストの該当箇所を事前に読んで授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直し。	予習に60分、復習に60分。
第7回	第3章についてのディスカッション	
	予習として、テキストの該当箇所を再読して授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直しと議論の総括。	予習に60分、復習に60分。
第8回	第4章「現代世界の健康まで」についての内容報告	
	予習として、テキストの該当箇所を事前に読んで授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直し。	予習に60分、復習に60分。
第9回	第4章についてのディスカッション	
	予習として、テキストの該当箇所を再読して授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直しと議論の総括。	予習に60分、復習に60分。

第10回	第5章「アメリカの物質的幸福」についての内容報告	
	予習として、テキストの該当箇所を事前に読んで授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直し。	予習に60分、復習に60分。
第11回	第5章についてのディスカッション	
	予習として、テキストの該当箇所を再読して授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直しと議論の総括。	予習に60分、復習に60分。
第12回	第6章「グローバル化と最大の脱出」についての内容報告	
	予習として、テキストの該当箇所を事前に読んで授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直し。	予習に60分、復習に60分。
第13回	第6章についてのディスカッション	
	予習として、テキストの該当箇所を再読して授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直しと議論の総括。	予習に60分、復習に60分。
第14回	第7章「取り残された者をどうやって助けるか」についての内容報告	
	予習として、テキストの該当箇所を事前に読んで授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直し。	予習に60分、復習に60分。
第15回	第7章についてのディスカッション	
	予習として、テキストの該当箇所を再読して授業に参加のこと。 復習としては、テキストの重要部分の読み直しと議論の総括。	予習に60分、復習に60分。

授業の方法

テキストや演習担当者が配布するプリントの各章を受講生にローテーションで報告してもらい、演習参加者全員で報告内容について議論をする形式で進める。

成績評価の方法

学期末に提出されるレポート（40%）、授業への積極性（20%）、授業での報告の善し悪し（20%）、授業への貢献度（20%）にもとづき評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識と先修科目はとくにない。関連科目は経済史関連がそれにあたる。

テキスト

アンガス・ディートン『大脱出——健康、お金、格差の起原——』みすず書房、2014年

参考書

ロバート・C・アレン『なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか』NTT出版、2012年

アンソニー・B・アトキンソン『21世紀の不平等』東洋経済新報社、2015年

ケネス・ボメランツ&スティーヴン・トピック『グローバル経済の誕生—貿易が作り変えたこの世界—』筑摩書房、2013年

ダロン・アセモグル&ジェイムズ・A・ロビンソン『国家はなぜ衰退するのか(上)(下)—権力・繁栄・貧困の起源—』早川書房、2013年

ブランコ・ミラノヴィッチ『不平等について—経済学と統計が語る26の話—』みすず書房、2012年 ほか

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	経営戦略研究		
教員名	浜松 翔平		
科目ナンバー	2030731001	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

この講義では、経営戦略論に関する発展的な議論を学びながら、日本企業が直面する戦略的課題について考えていきます。具体的には、経営戦略論に関係する論文集の中から毎回1本程度の論文をピックアップし、輪読・議論をしていきます。講義を通じて、皆さんには、学部教科書レベルから一歩進んだ知識を身につけてもらおうと共に、戦略の問題を考える上での思考力を鍛えてもらいます。

到達目標

DP11、14（専門分野の知識・理解）、DP13（研究能力及び発信力）、DP20（表現力及び発信力）を実現するために、以下の4点を達成目標とする。

- (1) 企業に関する理論を理解できる
- (2) 企業に関する論理を本質を抑えて要約できる
- (3) 企業に関する論理を他人にわかりやすく説明できる
- (4) 疑問や課題を発見する事ができる

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・使用テキスト、授業方法について説明する。 ・次回以降の発表担当を決める	
	【予習】自分が興味を持つ章を事前に読んでおいてください。どの章を担当するか初回講義で決定します。 【復習】自分の発表する章を読んでおく。	60
第2回	論文集の輪読 ・発表者による担当箇所の発表 ・論文内容に関する議論 ・自分の研究に関するアイデア議論	
	【予習】該当章を読んでおき、A4 1枚程度にまとめる。 【復習】テキストの該当章を再度読み、自分が内容を理解していることを確認する。	60
第3回	論文集の輪読 ・発表者による担当箇所の発表 ・論文内容に関する議論 ・自分の研究に関するアイデア議論	
	【予習】該当章を読んでおき、A4 1枚程度にまとめる。 【復習】テキストの該当章を再度読み、自分が内容を理解していることを確認する。	60

第4回	論文集の輪読 ・発表者による担当箇所の発表 ・論文内容に関する議論 ・自分の研究に関するアイデア議論	
	【予習】該当章を読んでおき、A4 1枚程度にまとめる。 【復習】テキストの該当章を再度読み、自分が内容を理解していることを確認する。	60
第5回	論文集の輪読 ・発表者による担当箇所の発表 ・論文内容に関する議論 ・自分の研究に関するアイデア議論	
	【予習】該当章を読んでおき、A4 1枚程度にまとめる。 【復習】テキストの該当章を再度読み、自分が内容を理解していることを確認する。	60
第6回	論文集の輪読 ・発表者による担当箇所の発表 ・論文内容に関する議論 ・自分の研究に関するアイデア議論	
	【予習】該当章を読んでおき、A4 1枚程度にまとめる。 【復習】テキストの該当章を再度読み、自分が内容を理解していることを確認する。	60
第7回	論文集の輪読 ・発表者による担当箇所の発表 ・論文内容に関する議論 ・自分の研究に関するアイデア議論	
	【予習】該当章を読んでおき、A4 1枚程度にまとめる。 【復習】テキストの該当章を再度読み、自分が内容を理解していることを確認する。	60
第8回	論文集の輪読 ・発表者による担当箇所の発表 ・論文内容に関する議論 ・自分の研究に関するアイデア議論	
	【予習】該当章を読んでおき、A4 1枚程度にまとめる。 【復習】テキストの該当章を再度読み、自分が内容を理解していることを確認する。	60
第9回	論文集の輪読 ・発表者による担当箇所の発表 ・論文内容に関する議論 ・自分の研究に関するアイデア議論	
	【予習】該当章を読んでおき、A4 1枚程度にまとめる。 【復習】テキストの該当章を再度読み、自分が内容を理解していることを確認する。	60

第10回	論文集の輪読 ・発表者による担当箇所の発表 ・論文内容に関する議論 ・自分の研究に関するアイデア議論	
	【予習】該当章を読んでおき、A4 1枚程度にまとめる。 【復習】テキストの該当章を再度読み、自分が内容を理解していることを確認する。	60
第11回	論文集の輪読 ・発表者による担当箇所の発表 ・論文内容に関する議論 ・自分の研究に関するアイデア議論	
	【予習】該当章を読んでおき、A4 1枚程度にまとめる。 【復習】テキストの該当章を再度読み、自分が内容を理解していることを確認する。	60
第12回	論文集の輪読 ・発表者による担当箇所の発表 ・論文内容に関する議論 ・自分の研究に関するアイデア議論	
	【予習】該当章を読んでおき、A4 1枚程度にまとめる。 【復習】テキストの該当章を再度読み、自分が内容を理解していることを確認する。	60
第13回	論文集の輪読 ・発表者による担当箇所の発表 ・論文内容に関する議論 ・自分の研究に関するアイデア議論	
	【予習】該当章を読んでおき、A4 1枚程度にまとめる。 【復習】テキストの該当章を再度読み、自分が内容を理解していることを確認する。	60
第14回	論文集の輪読 ・発表者による担当箇所の発表 ・論文内容に関する議論 ・自分の研究に関するアイデア議論	
	【予習】該当章を読んでおき、A4 1枚程度にまとめる。 【復習】テキストの該当章を再度読み、自分が内容を理解していることを確認する。	60
第15回	まとめ ・これまでの議論をまとめて、十分な理解を得るようにする。	
	【予習】これまでの論文で興味を惹かれた分野を整理しておく。 【復習】今後、どのような分野で研究をしたいかを考える。	60

授業の方法

1回の授業で1本の論文を取り上げます。取り上げる論文は、受講者の興味関心に応じて初回の講義で決めます。毎回の講義では、事前に決めた各論文の担当者が、論文の内容や評価に関して作成したレジュメを基に報告をします。

発表者担当者の役割としては、発表の前の週に、発表担当者は該当する章を参加人数分印刷して持参します。発表当日は、人数分のレジュメを印刷して持参します。レジュメには、論文の要約、ディスカッションしたいポイントを記載しておくこと。

その他の学生は、受け取った論文を読みA4 1枚程度にまとめた上で、授業に出席・ディスカッションに参加します。ディスカッションは、担当者のレジュメと提出されたコメントを元に進めていきます。

授業では論文を読むだけでなく、読んだ論文からインスピレーションを得て今後どのような研究を自分ができるかを議論します。今後すすめたい研究内容についても議論できるように、日頃から検討しておくようにしてください。

成績評価の方法

レジュメやコメント等の提出物（80%）、授業への参加態度（議論への参加等）(20%)。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

学部レベルの経営学の基礎知識があることを前提とします。

テキスト

『リーディングス 日本の企業システム 第Ⅱ期』の以下から、受講者の希望する章を選択して扱います。

伊丹・藤本・岡崎・伊藤・沼上 編著（2006）『リーディングス 日本の企業システム第Ⅱ期 第3巻 戦略とイノベーション』有斐閣。

参考書

適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	マーケティング研究		
教員名	井上 淳子		
科目ナンバー	2030731004	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
この科目は、マーケティングの伝統的フレームワーク（STPおよび4P）について学び、それぞれのトピックについて最新の事例や現象と合わせて考察することをテーマとします。 企業ケースや先端的研究のディスカッションを通じて広くマーケティングを理解するとともに、実際のマーケティング戦略について検討します。			
到達目標			
DP5・6（専門分野の知識・理解）、DP7（論理的思考力）を実現するため、以下を到達目標とする。 ・マーケティングの基本的な用語や概念を理解し、修士論文および特定課題研究に活用できる。 ・新しいマーケティングトピックを理解し、さまざまなマーケティング現象を多様な角度から考察できる。 ・分析や考察の内容を他者に論理的に説明し、ディスカッションを展開できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	オリエンテーション ・講義の内容、進め方等について説明する。		
	【予習】 ・テキストの目次を含め「はじめに」までを読み本の主旨を理解する。		60
第2回	輪読とディスカッション part 1 ・担当者による要旨の報告。 ・マーケティングの目標と達成指標についての理解とディスカッション。		
	【予習】 ・テキスト、配布資料を読み、担当者はレジュメを作成する。担当者以外も要旨をまとめディスカッションの準備をする。		120
第3回	輪読とディスカッション part 2 ・担当者による要約の報告。 ・セグメンテーションおよびターゲティングについての理解とディスカッション。		
	【予習】 ・テキスト、配布資料を読み、担当者はレジュメを作成する。担当者以外も要旨をまとめディスカッションの準備をする。		120

第4回	輪読とディスカッション part 3 ・担当者による要約の報告。 ・ポジショニングと価値提案についての理解とディスカッション。	
	【予習】 ・テキスト、配布資料を読み、担当者はレジュメを作成する。担当者以外も要旨をまとめディスカッションの準備をする。	120
第5回	輪読とディスカッション part 4 ・担当者による要約の報告。 ・ユニークなポジショニングおよび価値提案に関する事例研究とディスカッション。	
	【予習】 ・テキスト、配布資料を読み、担当者はレジュメを作成する。担当者以外も要旨をまとめディスカッションの準備をする。	120
第6回	輪読とディスカッション part 5 ・担当者による要約の報告。 ・新製品開発の手法に関する理解とディスカッション。	
	【予習】 ・テキスト、配布資料を読み、担当者はレジュメを作成する。担当者以外も要旨をまとめディスカッションの準備をする。	120
第7回	輪読とディスカッション part 6 ・担当者による要約の報告。 ・価値共創に関する事例研究とディスカッション。	
	【予習】 ・テキスト、配布資料を読み、担当者はレジュメを作成する。担当者以外も要旨をまとめディスカッションの準備をする。	120
第8回	輪読とディスカッション part 7 ・担当者による要約の報告。 ・新製品の普及に関する考え方ならびにモデルの理解とディスカッション。	
	【予習】 ・テキスト、配布資料を読み、担当者はレジュメを作成する。担当者以外も要旨をまとめディスカッションの準備をする。	120
第9回	輪読とディスカッション part 8 ・担当者による要約の報告。 ・価格設定のフレームワークに関する理解とディスカッション。	
	【予習】 ・テキスト、配布資料を読み、担当者はレジュメを作成する。担当者以外も要旨をまとめディスカッションの準備をする。	120

第10回	輪読とディスカッション part 9 ・担当者による要約の報告。 ・広告・プロモーションに関する理解とディスカッション。	
	【予習】 ・テキスト、配布資料を読み、担当者はレジュメを作成する。担当者以外も要旨をまとめディスカッションの準備をする。	120
第11回	輪読とディスカッション part 10 ・担当者による要約の報告。 ・マーケティングにおけるソーシャルメディアの活用事例についてディスカッション。	
	【予習】 ・テキスト、配布資料を読み、担当者はレジュメを作成する。担当者以外も要旨をまとめディスカッションの準備をする。	120
第12回	輪読とディスカッション part 11 ・担当者による要約の報告。 クチコミに関する最新研究についてディスカッション。	
	【予習】 ・テキスト、配布資料を読み、担当者はレジュメを作成する。担当者以外も要旨をまとめディスカッションの準備をする。	120
第13回	輪読とディスカッション part 12 ・担当者による要約の報告。 ・チャンネル選択と管理に関する理解とディスカッション。	
	【予習】 ・テキスト、配布資料を読み、担当者はレジュメを作成する。担当者以外も要旨をまとめディスカッションの準備をする。	120
第14回	輪読とディスカッション part 13 ・担当者による要約の報告。 ・マーケティングリサーチ手法に関する理解とディスカッション。	
	【予習】 ・テキスト、配布資料を読み、担当者はレジュメを作成する。担当者以外も要旨をまとめディスカッションの準備をする。	120
第15回	まとめ ・講義全体を振り返り、まとめを行う。	
	【予習】 ・これまでのレジュメ、ディスカッションメモに目を通しておく。	60

授業の方法

・授業は、担当者による報告と全員でのディスカッションという構成で行う。その際、テキストならびに資料は、和文献、英文献のどちらでも使用する。
・報告者は、A4サイズ3～5枚程度でレジュメを用意する。また報告者以外の受講者は、毎回要旨（A4サイズ1枚程度）を作成し、ディスカッションのための準備をして授業に臨む。

成績評価の方法

授業における報告内容(50%)、ディスカッションへの参加度(30%)、提出物の内容(20%)によって評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 11-2.

次の点に着目し、その到達度により評価する。

- ・テキスト、資料の内容を十分理解し、自身の視点や考察を踏まえたレジュメ作成と報告ができるか。
- ・ディスカッションに積極的に参加し、テーマ理解の促進や有用なアイデア、情報の共有に貢献できるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「経営戦略研究」など経営関連科目全般。

テキスト

- ・『マーケティング』、池尾恭一・青木幸弘・南千恵子・井上哲浩（著）、有斐閣、2010年。
- ・『マーケティングは進化する』、水野誠（著）、同文館出版、2014年。
- ・Journal of Marketingの最新号。
- ・配布資料（テーマに合わせて適宜教員が用意する）。

参考書

適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	産業組織と企業戦略		
教員名	平尾 由紀子		
科目ナンバー	2030731005	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

産業組織論の理論と実証研究について学び、企業戦略への応用について考える。また、独占禁止法と産業の規制を中心に、企業の経済活動に関する政策について勉強する。
 なお、授業の進捗に応じて、以下の授業の計画・内容、及び宿題の回数と提出日を一部変更する場合がある。

到達目標

DP5・6・14・16（専門分野の知識・理解）、DP7・17（論理的思考力）を実現するため、以下を到達目標とする。

- ①市場競争のメカニズム、企業戦略、産業構造に関する理解を養う。
- ②独占に対する経済政策（独占禁止法）に関する知識を深める。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	イントロダクション：産業組織の基本概念	
	【復習】 授業の内容を復習する。	60
第2回	完全競争市場	
	【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題1に取り組む。	120
第3回	宿題1の解説 経済厚生と余剰分析	
	【復習】 授業の内容を復習する。宿題1の理解を確認する。 【予習】 学期末の報告発表について、テーマを考える。	90

第4回	独占その1：参入障壁と独占の行動	
	【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題2に取り組む。	120
第5回	宿題2の解説 独占その2：独占価格と価格差別	
	【復習】 授業の内容を復習する。宿題2の理解を確認する。 【予習】 学期末の報告発表のテーマについて、引き続き考える。	90
第6回	独占禁止法	
	【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題3に取り組む。	120
第7回	宿題3の解説 企業間の川上・川下関係：垂直的取引制限	
	【復習】 授業の内容を復習する。宿題3の理解を確認する。 【予習】 学期末の報告発表のテーマについて調べる。	120
第8回	寡占市場と数量競争	
	【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題4に取り組む。	120
第9回	宿題4の解説 寡占市場と価格競争	
	【復習】 授業の内容を復習する。宿題4の理解を確認する。 【予習】 学期末報告発表のテーマについて引き続き調べる。	120

第10回	カルテル	
	【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題5に取り組む。	120
第11回	宿題5の解説 参入と参入阻止	
	【復習】 授業の内容を復習する。宿題5の理解を確認する。 【予習】 学期末の報告発表用のレジュメを作成する。	120
第12回	製品差別化と広告	
	【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題6に取り組む。	120
第13回	宿題6の解説 技術革新とR&D競争	
	【復習】 授業の内容を復習する。宿題6の理解を確認する。 【予習】 学期末の報告発表用のレジュメを仕上げる。	120
第14回	学生の報告発表（任意の産業について調べて報告）	
	【予習】 報告発表の準備を行う。	120
第15回	全体のまとめ	
	【復習】 今学期の授業全体の内容を復習する。	120

授業の方法

基本的に、配布プリントを元に教員が講義を行うが、学生も報告発表と宿題提出を通じて授業に積極的に参加する形式である。学期の最後には、任意の産業の実態について学生に報告発表してもらい、学生各自で産業を選び、調査して、報告発表の準備を進める。

学生は、定期的に課される宿題に取り組むことにより、授業の復習をする。分からないことを次回の授業に持ち越さないようにする。また、上で示された準備学習の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。

なお、定期的に課される宿題は、その時々授業内容の理解を確認することを目的とする。

成績評価の方法

授業への参加状況（25%）、毎週の宿題の提出（25%）、学期末の報告発表（25%）、および学期末試験（25%）をあわせて総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。また、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①市場競争のメカニズム、企業戦略、産業構造に関する理解を深めた。
- ②独占禁止法に関する知識を深めた。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

先修科目や必要な予備知識は特になし。関連科目は「ミクロエコンミクス基礎研究」と戦略マーケティング・ユニットの科目。

テキスト

・三菱総合研究所編（2006）「日本産業読本 第8版」、東洋経済新報社、2400円＋税（ISBN4-492-10015-6）を、学生の報告発表用のテキストとする。ただし、図書館に入っているため、テキスト購入は不要。

参考書

- ・小田切宏之（2001）「新しい産業組織論」、有斐閣、2,800円＋税。
- ・小田切宏之（2017）「競争戦略論 第2版」、日本評論社、2,500円＋税。
- ・長岡貞男（2013）「産業組織の経済学 第2版」、日本評論社、3,000円＋税。
- ・柳川隆・川濱昇編（2006）「競争の戦略と政策」、有斐閣ブックス、2,300円＋税。
- ・Tirole, J. (1988), The Theory of Industrial Organization, The MIT Press.
- ・Carlton, D., and J. Perloff (2005), Modern Industrial Organization, 4th Edition, Harper Collins.

その他の参考書は授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	組織行動研究		
教員名	山崎 由香里		
科目ナンバー	2030732002	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要			
組織は一人ひとりの個人によって構成されるが、複数の人々が集まり集団もしくはチームとして業務に携わる場合や、企業や組織の立場で決断・行動する場合が少なくない。本授業では、組織に関わる人々が、個人・集団・組織としてどのような要因の影響を受けながら行動するかについて、理論および事例を用いて学修する。			

到達目標			
DP14・16（専門分野の知識・理解）、DP17（論理的思考力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①組織行動論の諸理論を深く理解する。 ②議論に必要なさまざまな情報を、さまざまなメディアから収集できる。 ③組織行動論の諸理論を用いてケースを分析することができる。 ④論理的かつ説得的な議論を展開し、諸意見を収斂することができる。			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス： 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。成績評価方法を確認する。 次回以降の報告担当者を決める。		
	【予習】シラバスをよく読み、テキストを確認する。 【復習】テキストの概要を把握する。	60	
第2回	第Ⅰ部「組織行動論とは」： 報告担当者によるテキスト内容の説明とディスカッション		
	【予習】全員が次回取り上げる章を通読し、問題提起する。担当者は報告準備。 【復習】組織行動論の概要を説明できるようにする。	60	
第3回	第Ⅱ部「個人の行動・パーソナリティ・意思決定」： 担当者によるテキスト内容の説明とディスカッション		
	【予習】全員が次回取り上げる章を通読し、問題提起する。担当者は報告準備。 【復習】個人の行動への影響要因を説明できるようにする。	60	

第4回	前回トピックに関する事例のディスカッション	
	【予習】全員が次回取り上げる事例を検索し、報告準備。 【復習】取り上げた事例の概要をまとめ、次回提出。	90
第5回	第Ⅱ部「動機づけ」： 報告担当者によるテキスト内容の説明とディスカッション	
	【予習】全員が次回取り上げる章を通読し、問題提起する。担当者は報告準備。 【復習】動機づけへの影響要因を説明できるようにする。	60
第6回	前回トピックに関する事例のディスカッション	
	【予習】全員が次回取り上げる事例を検索し、報告準備。 【復習】取り上げた事例の概要をまとめ、次回提出。	90
第7回	第Ⅲ部「集団・チーム・コミュニケーション」： 報告担当者によるテキスト内容の説明とディスカッション	
	【予習】全員が次回取り上げる章を通読し、問題提起する。担当者は報告準備。 【復習】集団・チームの行動への影響要因を説明できるようにする。	60
第8回	前回トピックに関する事例のディスカッション	
	【予習】全員が次回取り上げる事例を検索し、報告準備。 【復習】取り上げた事例の概要をまとめ、次回提出。	90
第9回	第Ⅲ部「リーダーシップ・パワー・コンフリクト」： 報告担当者によるテキスト内容の説明とディスカッション	
	【予習】全員が次回取り上げる章を通読し、問題提起する。担当者は報告準備。 【復習】リーダーシップに関する諸理論を説明できるようにする。	60

第10回	前回トピックに関する事例のディスカッション	
	【予習】全員が次回取り上げる事例を検索し、報告準備。 【復習】取り上げた事例の概要をまとめ、次回提出。	90
第11回	第Ⅳ部「組織構造・組織文化」： 報告担当者によるテキスト内容の説明とディスカッション	
	【予習】全員が次回取り上げる章を通読し、問題提起する。担当者は報告準備。 【復習】組織構造および文化に関する諸理論を説明できるようにする。	60
第12回	前回トピックに関する事例のディスカッション	
	【予習】全員が次回取り上げる事例を検索し、報告準備。 【復習】取り上げた事例の概要をまとめ、次回提出。	90
第13回	第Ⅳ部「人材管理・組織変革と開発」： 報告担当者によるテキスト内容の説明とディスカッション	
	【予習】全員が次回取り上げる章を通読し、問題提起する。担当者は報告準備。 【復習】人材管理および組織変革に関する諸理論を説明できるようにする。	60
第14回	前回トピックに関する事例のディスカッション	
	【予習】全員が次回取り上げる事例を検索し、報告準備。 【復習】取り上げた事例の概要をまとめ、次回提出。	90
第15回	授業の総括：テキストの全内容および全授業の総括、質疑応答	
	【復習】授業総括を踏まえて、到達目標と自分の理解度をチェックし、不足知識を学修する。	60

授業の方法

テキストとケーススタディの輪読を隔週で行う。内容に関する学生のディスカッションが中心となる。テキスト報告担当者による内容紹介・議論を行い、次の授業で全員が検索してきたケーススタディを紹介し、議論を行う。また、適宜、テキストおよびケースに関する課題を提出する。なお、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。また、理解度に応じて各回のテーマ変更する可能性がある。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況や宿題の提出状況）（20%）、報告時の成果（20%）、提出課題（20%）、授業態度（問題提起、意見表明、ディスカッション等の授業貢献度）（40%）を基準に、総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①組織行動論の諸理論を深く理解しているか。
- ②議論に必要なさまざまな情報を、さまざまなメディアから収集できるか。
- ③組織行動論の諸理論を用いてケースを分析することができるか。
- ④論理的かつ説得的な議論を展開し、諸意見を収斂することができるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

大学院生として修得しておくべき、経営学（理論や事例）に関する基礎知識。

テキスト

1. 高木晴夫「【新版】組織行動のマネジメント-入門から実践へ」、ダイヤモンド社、2009年、ISBN-10: 4478004595
2. 図書館所蔵のさまざまなビジネス雑誌

参考書

図書館所蔵の「Organizational Behavior」関連の洋書

Stephen P. Robbins and Timothy A. Judge, "Essentials of Organizational Behavior," 12th Ed. Prentice Hall, 2013.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	人的資源管理研究		
教員名	義村 敦子		
科目ナンバー	2030732004	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

この授業のテーマは「人的資源管理のダイバーシティを考える」です。企業内人材の多様化が急速に進んでいる中、人的資源管理はどのように変化していくのでしょうか。この授業では人的資源管理について学んだうえで、人材の多様化に伴う人的資源管理の変化の方向性について考えます。

到達目標

この授業はDP14・16（専門分野の知識・理解）、DP17（論理的思考力）を実現するため、以下を到達目標とします。

- i①「日本的な」人的資源管理とは何かを理解する
- ②ダイバーシティに対応した人的資源管理とは何かを考える力を付ける

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	イントロダクション	
	【予習】テキストの序章を熟読。	60
第2回	企業経営と人的資源管理	
	【予習】テキスト第1章を熟読し、授業中の議論に備える。	120
第3回	モチベーションとリーダーシップ	
	【予習】テキスト第2章を熟読し、授業中の議論に備える。	90

第4回	組織構造と職務内容	
	【予習】テキスト第3章を熟読し、授業中の議論に備える。	90
第5回	人事等級制度	
	【予習】テキスト第4章を熟読し、授業中の議論に備える。	90
第6回	雇用管理	
	【予習】テキスト第5章を熟読し、授業中の議論に備える。	90
第7回	キャリア開発	
	【予習】テキスト第6章を熟読し、授業中の議論に備える。	90
第8回	人事考課制度	
	【予習】テキスト第7章を熟読し、授業中の議論に備える。	90
第9回	専門職制度	
	【予習】テキスト第8章を熟読し、授業中の議論に備える。	90

第10回	賃金制度	
	【予習】テキスト第9章を熟読し、授業中の議論に備える。	90
第11回	福利厚生制度	
	【予習】テキスト第10章を熟読し、授業中の議論に備える。	90
第12回	労使関係	
	【予習】テキスト第11章を熟読し、授業中の議論に備える。	90
第13回	非正規労働者	
	【予習】テキスト第12章の該当部分を熟読し、議論に備える。	90
第14回	ダイバーシティ・マネジメント システム	
	テキスト第13章を熟読し、授業中の議論に備える。	90
第15回	まとめ	
	【予習】第2回から第14回の議論をふりかえり、理解を深めておく。 【復習】テキスト全体を再度読み直し、課題レポートを作成する。	120

授業の方法

毎回テキストを題材とした発表を踏まえて、ディスカッションを行う。

成績評価の方法

発表（30%）、討議（30%）、学期末レポート（40%）によって総合評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

次の点に着目し、その到達度により評価する。

- ①日本的人的資源管理の特徴を理解し、説明できる。
- ②グローバル化に対応した人的資源管理の方向性について自分も意見を述べられる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

経営学全般の知識を必要とします。

テキスト

平野光俊著 『日本型人事管理—進化型の発生プロセスと機能性』 中央経済社

参考書

必要に応じて授業中に指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	財務会計研究		
教員名	高橋 史郎		
科目ナンバー	2030733001	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

この授業の目標は、「事業の言語（language of business）」と呼ばれる「会計」を中上級レベルにおいて修得することです。皆さんがこれまでに学修した財務会計の知識をベースとして、さらにステップアップした内容までカバーしていきます。経済経営研究科の大学院生として備えるべき「会計力」を、とくに財務会計の面からブラッシュアップすることが目的となります。

税理士や公認会計士などの会計専門職を志す人には必須の学修内容となりますが、そうではない人にとってもそれぞれの将来キャリア上でビジネス言語としての会計に関する知識は備えておくべきでしょう。この授業では、受講生と教員の双方向性を重視して、主にディスカッションを中心として現行の財務会計に関する諸問題に取り組んでいきます。

到達目標

DP11およびDP14（専門的知識の修得）、DP17（論理的思考力）を達成するため、次の3つを到達目標とする。

- ①身の回りの事象について、会計的な視点で丹念に説明できる。
- ②中上級レベルの財務会計の知識を修得する。
- ③自分のキャリア上で会計知識がどのように役立つかについて明確な回答ができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、ルール、成績評価方法などを確認する。 ・各自の会計に関するバックグラウンドを確認する。	
	【予習】テキストを入手し、内容についてざっと目をとおしておく。	60
第2回	現代の企業会計 ・テキストの序章を読み、現行の会計実務の内容を理解しディスカッション・テーマについて意見を交わす。	
	【予習】テキストの序章を熟読し、ディスカッション・テーマを用意する。 【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。	90
第3回	企業会計の本質とフレームワーク ・テキストの第2章を読み、ディスカッション・テーマについて意見を交わす。	
	【予習】テキストの2章を熟読し、ディスカッション・テーマを用意する。 【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。	90

第4回	会計制度の論理と体系 ・テキストの第3章を読み、ディスカッション・テーマについて意見を交わす。	
	【予習】テキストの3章を熟読し、ディスカッション・テーマを用意する。 【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。	90
第5回	企業のディスクロージャー ・テキストの第4章を読み、ディスカッション・テーマについて意見を交わす。	
	【予習】テキストの4章を熟読し、ディスカッション・テーマを用意する。 【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。	90
第6回	損益計算書のパラダイム ・テキストの第5章を読み、ディスカッション・テーマについて意見を交わす。	
	【予習】テキストの5章を熟読し、ディスカッション・テーマを用意する。 【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。	90
第7回	経営パフォーマンスの測定と表示 ・テキストの第6章を読み、ディスカッション・テーマについて意見を交わす。	
	【予習】テキストの6章を熟読し、ディスカッション・テーマを用意する。 【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。	90
第8回	貸借対照表のパラダイム ・テキストの第7章を読み、ディスカッション・テーマについて意見を交わす。	
	【予習】テキストの7章を熟読し、ディスカッション・テーマを用意する。 【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。	90
第9回	資産の会計 ・テキストの第8章を読み、ディスカッション・テーマについて意見を交わす。	
	【予習】テキストの8章を熟読し、ディスカッション・テーマを用意する。 【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。	90

第10回	持分の会計 ・テキストの第9章を読み、ディスカッション・テーマについて意見を交わす。	
	【予習】テキストの9章を熟読し、ディスカッション・テーマを用意する。 【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。	90
第11回	金融商品の会計 ・テキストの第10章を読み、ディスカッション・テーマについて意見を交わす。	
	【予習】テキストの10章を熟読し、ディスカッション・テーマを用意する。 【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。	90
第12回	従業員給付の会計 ・テキストの第11章を読み、ディスカッション・テーマについて意見を交わす。	
	【予習】テキストの11章を熟読し、ディスカッション・テーマを用意する。 【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。	90
第13回	連結グループの会計 ・テキストの第12章を読み、ディスカッション・テーマについて意見を交わす。	
	【予習】テキストの12章を熟読し、ディスカッション・テーマを用意する。 【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。	90
第14回	企業結合・事業分離等の会計 ・テキストの第13章を読み、ディスカッション・テーマについて意見を交わす。	
	【予習】テキストの13章を熟読し、ディスカッション・テーマを用意する。 【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。	90
第15回	授業のまとめ ・これまでの学修内容を振り返り、各自が理解度を確認する。質疑応答を行う。 ・レポート作成の準備をする。	
	【復習】学修が不十分な部分を補い、レポート作成にとりかかる。	90

授業の方法

毎回の授業の前にテキストの指定箇所を丹念に読み、受講生それぞれが感じた疑問、提言などについてメモをとり、授業でのディスカッション・テーマを用意してもらいます。教室では、用意されたディスカッション・テーマについて皆で意見を交わし、現行の会計が抱える問題点について考察していきます。

質問などは、教室やメールなどで随時受け付けます。授業終了後、配布資料などを見直して理解できなかったことや疑問点を確認し、次の授業やメールなどで質問をするように心がけてください。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安なので、各自の理解度に応じて取り組んでください。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況や課題への取り組み方、ディスカッションへの貢献度など）とレポートで総合的に評価します。評価項目のウェイトは次のとおりです。

- ・ 平常点 40%
- ・ レポート 60%

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ①身の回りの事象について、会計的な視点で丹念に説明できるか。
- ②中上級レベルの財務会計の知識を修得したか。
- ③自分のキャリア上で会計知識がどのように役立つかについて明確な回答ができるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

大学学部などにおける会計関連科目の知識修得はもちろん必要になりますが、会計学の領域にとどまらず、経営学や経済学に関する知識修得もあればなおよいでしょう。

テキスト

特定のテキストは使用しません。毎回の授業でプリントを配布します。

参考書

『新・現代会計入門』、伊藤邦雄著、日本経済新聞出版社、3,500円。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	租税法基礎研究		
教員名	伊藤 公哉		
科目ナンバー	2030733004	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

この科目は、学部レベルの租税法の知識があることを前提に、大学院生（修士課程）を対象とした授業で、テーマは「租税判例（重要判例）の読解」です。
租税判例（重要判例）を検討し報告する作業を通して、租税法の法的思考能力を醸成します。

到達目標

DP14・16（専門分野の知識・理解）、DP17（論理的思考力）を実現するため、以下を到達目標とする。
この科目では租税判例（重要判例）を検討し報告する作業を通じて租税法の法的思考能力を醸成することを目標とします。
具体的な到達目標は、下記のとおりです。
(1) リーガル・リサーチのスキルを身につけ実践できるようになる
(2) 意見を形成し、客観的な証拠に基づいた法的論証ができるようになる

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	・ガイダンス、リーガル・リサーチと法律文献の引用方法 ・報告分担の決定	
	【復習】データベースを実際に操作してリーガル・リサーチに慣れる。	90
第2回	大嶋訴訟（§111.01）（給与所得課税§131.01）	
	【予習】報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120
第3回	大阪銘板事件 法律と政令（§122.01）	
	【予習】報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120

第4回	旭川市国民健康保険条例事件 （§ 121. 02）	
	【予習】 報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】 参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120
第5回	土地譲渡損失損益通算否定事件 （§ 125. 01）	
	【予習】 報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】 参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120
第6回	パチンコ球遊器事件 （§ 140. 02）	
	【予習】 報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】 参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120
第7回	東京産業信用金庫事件 （§ 161. 02）	
	【予習】 報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】 参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120
第8回	武富士事件 （§ 162. 01）	
	【予習】 報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】 参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120
第9回	財産分与契約 （§ 163. 01）	
	【予習】 報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】 参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120

第10回	相互売買事件（§164.02）	
	【予習】報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120
第11回	外国税額控除余裕枠銀行事件（§164.04）	
	【予習】報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120
第12回	パラツイーナ事件（§164.05）	
	【予習】報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120
第13回	文化学院事件（§166.02）	
	【予習】報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120
第14回	利息制限法違反事件（§211.02）	
	【予習】報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120
第15回	マンション建設承諾料事件（§211.05） （※扱う事件は、受講者の理解・関心に応じて変更することがあります）	
	【予習】報告者は判例及び評釈を丁寧に読み自分の意見を形成したうえでレジュメを作成する。 【復習】参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	120

授業の方法

講義及びゼミ形式で実施します。受講者は予習をし、また報告者はレジュメ（Wordで作成）を用意してください。
なお、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。

成績評価の方法

報告内容（70%）および授業への貢献（問いかけへの応答等）の平常点（30%）により総合的に評価します。（試験は実施しません）

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- (1) リーガル・リサーチのスキルを身につけ実践できるようになる
- (2) 自分の意見を形成し、客観的な証拠に基づいた法的論証ができるようになる

必要な予備知識／先修科目／関連科目

議論に積極的に参加するためには学部レベルの租税法の知識が不可欠になります。不安な場合には、金子宏『租税法』（弘文堂）などで予習をしていただくことをお勧めします。また、関連する法分野としては、憲法、民商法などがあります。

テキスト

受講者の受講の目的及びレベル等を勘案して、初回に決定します。
（過去には、金子宏ほか編著『ケースブック租税法』（弘文堂）を使用しました）

参考書

金子宏『租税法』（弘文堂、第23版、2018年）など。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	法人税法研究		
教員名	成道 秀雄		
科目ナンバー	2030733005	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

「会計税務」というテーマで、B E P S問題について講義する。O E C D租税委員会は2015年9月にB E P S行動計画最終報告書を公表した。O E C D租税委員会にのメンバーに呼びかけ、協調して国際的租税回避を防止する方向で調整を進めている。講義では行動計画1から15までの内容を解説します。多国籍企業の進出によって、国際課税では多くの問題が発生しており、その解消のための方策を考えていきます。

到達目標

DP17（多様な情報から問題の本質を見抜く洞察力と、それを課題解決に結び付けていく論理的思考力を身に付けている。）を実現するため、以下を到達目標とする。

将来において研究者又は税務業務に就かれるにおいて、その前提となる十分な知識、能力となることを目的とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。B E P S最終報告書の概要を解説する。	
	B E P S最終報告書の概要を理解する。	60
第2回	行動計画1 電子商取引課税について学修します。	
	[予習]プリントB E P S行動計画1を理解しておくこと [復習]キーワードについて説明できるようにする。	60
第3回	行動計画2 「ハイブリッド・ミスマッチ取決めの効果否認」について学修します。	
	[予習]プリントB E P S行動計画2を理解しておくこと [復習]キーワードについて説明できるようにする。	60

第4回	行動計画3 「タックス・ヘイブン対策税制の強化」について学修します 課題レポート①の提出	
	[予習]プリントB E P S 行動計画3を理解しておくこと [復習]キーワードについて説明できるようにする。	60
第5回	課題レポート①の解説 行動計画4 「利子等の損金算入を通じた税源浸食の制限」について学修します。	
	[予習]プリントB E P S 行動計画4を理解しておくこと [復習]キーワードについて説明できるようにする。課題レポート①の復習	60
第6回	行動計画5 「有害税制への対応」について学修します。	
	[予習]プリントB E P S 行動計画5を理解しておくこと。[復習]キーワードについて説明できるようにする。	60
第7回	行動計画6 「租税条約濫用の防止」について学修します 課題レポート②の提出	
	[予習]プリントB E P S 行動計画6を理解しておくこと。[復習] キーワードについて説明できるようにする。	60
第8回	課題レポート②の解説 行動計画1から6までの小テストの実施	
	[予習]プリントB E P S 行動計画1から6を十分に復習して小テストに備える。[復習]課題レポート②の復習	60
第9回	行動計画7 「PE認定の人為的回避の防止」について学修します。	
	[予習]プリントB E P S 行動計画7を理解しておくこと。[復習]キーワードについて説明できるようにする。	60

第10回	行動計画 8 「移転価格税制の強化(無形資産)」を学修します。	
	[予習]プリントB E P S 行動計画 8「移転価格税制の強化(無形資産)」を理解しておくこと。[復習]キーワードについて説明できるようにする。	60
第11回	行動計画 8 「移転価格税制の強化(リスクと資本)」を学修します。	
	[予習]プリントB E P S 行動計画 8「移転価格税制の強化(リスクと資本)」を理解しておくこと。[復習]キーワードについて説明できるようにする。	60
第12回	行動計画 1 2 「タックス・プランニングの報告義務」について学修します。課題レポート③の提出	
	[予習]プリントB E P S 行動計画 1 2 を理解しておくこと[復習]キーワードについて説明できるようにする。	60
第13回	行動計画 1 5 「多国間協定の開発」について学修します。課題レポート③の解説	
	[予習]プリントB E P S 行動計画 1 5 を理解しておくこと。[復習]キーワードについて説明できるようにする。[復習]課題レポート③の復習	60
第14回	到達度確認テスト これまでの学習内容について、理解度を確認するためのテスト	
	[予習]到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。	60
第15回	到達度確認テストの解説・質疑応答 授業のまとめ	
	[復習]到達度確認テストの結果を受けて、この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。	60

授業の方法

授業において定期的に課題を提示する。学生は、その都度、課題についてレポートを作成し、提出することを求められる。普段から教科書、ノート、プリントを使った復習に力を入れ、次回の事業に分からないところを持ち越さないようにすること。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。なお、テキストとともに新聞報道等のコピーを配り、実務に密着した内容の講義に務める。

成績評価の方法

小テスト(5回25%)、課題レポート(2回25%)、期末テスト(1回40%)、積極的な授業参加(10%)

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準(学則第11条の2)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

関連する新聞報道の記事を配り、その内容の理解度を重視して評価する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

租税法、会社法、民法、国際法、企業会計、税務会計に関する基礎知識

テキスト

プリントを配って対応

参考書

成道秀雄『税務会計―法人税の理論と応用―』第一法規 定価6,300円＋税

成道秀雄編『新版税務会計学辞典』中央経済社 定価5,200円＋税

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

オフィス・アワー 水曜日の12時30分から13時まで研究室で対応

科目名	多変量データ分析		
教員名	田中 研太郎		
科目ナンバー	2030734003	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

近年、非常に多くの変数が混在しているデータ(多変量データ)が簡単に得られるようになってきているが、そのようなデータの中から有用な情報を得るためには、様々な統計解析手法の中から適切なものを選んで適切に実行しなくてはならない。この授業では、Rというオープンソースの統計処理環境を用いて、いくつかの多変量データ分析手法(重回帰分析や主成分分析やクラスター分析など)について学んでいく。

到達目標

DP2, 6, 12, 16(専門分野の知識・理解)を実現するため、以下を到達目標とする。

- 1) 様々な多変量解析の手法について理解する。
- 2) Rなどの統計処理ソフトウェアを用いて実際のデータの分析ができるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	ガイダンス (OfficeとRの操作方法について)	
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。	60分
第2回	統計処理環境Rの基礎 (OfficeとRによる簡単な分析について)	
	【予習・復習】可能であれば自宅のPCなどにRをインストールする。	60分
第3回	単回帰分析の復習とRによる計算 (Rでの単回帰分析の実行)	
	【予習・復習】単回帰分析について予習・復習しておく。	60分

第4回	重回帰分析 基礎 (Rでの重回帰分析の実行)	
	【予習】重回帰分析について予習しておく。(重回帰分析はどのような状況で用いられるのか?)	60分
第5回	重回帰分析 応用 (Rでの単重回帰分析の実行)	
	【予習・復習】Rを用いた重回帰分析の流れについて予習・復習する。 【課題】重回帰分析に関するレポート課題に取り組む。	120分
第6回	ロジスティック回帰分析 (Rでのロジスティック回帰分析の実行)	
	【復習】ロジスティック回帰分析の手法について復習する。	60分
第7回	判別分析 基礎 (Rでの判別分析の実行)	
	【予習】判別分析について予習しておく。(判別分析はどのような状況で用いられるのか?)	60分
第8回	判別分析 応用 (Rでの判別分析の実行)	
	【予習・復習】Rを用いた判別分析の流れについて予習・復習する。 【課題】判別分析に関するレポート課題に取り組む。	120分
第9回	機械学習の手法について紹介 (Rで機械学習)	
	【復習】これまでに習った多変量解析の手法について整理する。	60分

第10回	主成分分析 基礎 (Rでの主成分分析の実行)	
	【予習・復習】Rを用いた主成分分析の流れについて予習・復習する。	60分
第11回	主成分分析 応用 (Rでの主成分分析の実行)	
	【課題】主成分分析に関するレポート課題に取り組む。	120分
第12回	クラスター分析 基礎 (Rでのクラスター分析の実行)	
	【予習・復習】Rを用いたクラスター分析の流れについて予習・復習する。	60分
第13回	クラスター分析 応用 (Rでのクラスター分析の実行)	
	【課題】クラスター分析に関するレポート課題に取り組む。	120分
第14回	分散分析 基礎 (Rでの分散分析の実行)	
	【予習・復習】Rを用いた分散分析の流れについて予習・復習する。	60分
第15回	分散分析 応用 (Rでの分散分析の実行)	
	【課題】最終レポート課題に取り組む。	120分

授業の方法

多変量解析の手法について基本事項を解説した後、PC教室にあるパソコンを用いて演習を行う。
授業内容の理解のために、適宜レポート演習課題を与える。

成績評価の方法

配点は、授業への参加状況などの平常点50%、レポート50%を目安とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- i) 状況に応じて適切な多変量データ解析手法が選択できる。
- ii) RやOfficeを用いて実際のデータ解析ができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

平均、分散、相関係数などの記述統計に関する最低限の知識は持っているものとする。

テキスト

授業中に随時紹介する。

参考書

授業中に随時紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	地方公共政策研究		
教員名	中神 康博		
科目ナンバー	2030735002	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
少子高齢化が進むなかで日本の都市、地方は様々な問題を抱えている。本講義は、都市・地方が直面する具体的な政策課題について経済学的な分析を行うことを目的とする。取り扱うテーマは、土地利用政策、住宅政策、地方財政、政府間財政関係、ニューパブリックマネジメントなど。			
到達目標			
DP4・DP6（専門分野の知識・理解）とDP7（論理的思考力）を実現するために、都市・地方が抱える政策課題について経済学的な視点で考える方法を身につけることを目標とする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス 講義の目的と到達目標		
	【予習】講義の目的と到達目標を理解し、今後に向けて準備を行う。		60
第2回	土地利用政策I		
	【予習】教科書第8章を熟読する。 【復習】講義の内容を整理し、理解に努める。		120
第3回	土地利用政策II		
	【予習】教科書第8章を熟読する。 【復習】講義の内容を整理し、理解に努める。		120

第4回	土地利用政策ⅢⅠ	
	【予習】教科書第8章を熟読する。 【復習】講義の内容を整理し、理解に努める。	120
第5回	住宅政策Ⅰ	
	【予習】教科書第5・6章を熟読する。 【復習】講義の内容を整理し、理解に努める。	120
第6回	住宅政策Ⅱ	
	【予習】教科書第5・6章を熟読する。 【復習】講義の内容を整理し、理解に努める。	120
第7回	住宅政策ⅢⅠ	
	【予習】教科書第5・6章を熟読する。 【復習】講義の内容を整理し、理解に努める。	120
第8回	都市財政Ⅰ	
	【予習】教科書第9章を熟読する。 【復習】講義の内容を整理し、理解に努める。	120
第9回	都市財政Ⅱ	
	【予習】教科書第9章を熟読する。 【復習】講義の内容を整理し、理解に努める。	120

第10回	政府間財政関係Ⅰ	
	【予習】教科書第9章を熟読する。 【復習】講義の内容を整理し、理解に努める。	120
第11回	政府間財政関係Ⅱ	
	【予習】教科書第9章を熟読する。 【復習】講義の内容を整理し、理解に努める。	120
第12回	政府間財政関係ⅢⅠ	
	【予習】教科書第9章を熟読する。 【復習】講義の内容を整理し、理解に努める。	120
第13回	ニューパブリックマネジメントⅠ	
	【予習】配付された論文（未定）を熟読する。 【復習】講義の内容を整理し、理解に努める。	120
第14回	ニューパブリックマネジメントⅡ	
	【予習】配付された論文（未定）を熟読する。 【復習】講義の内容を整理し、理解に努める。	120
第15回	講義のまとめを行う。	
	【復習】講義の中で議論された内容の論点整理を行う。	120

授業の方法

金本良嗣・藤原徹共著『都市経済学（第2版）』の輪読を中心に、日本の都市が直面する政策課題についてディスカッション形式で議論を進めていく。

成績評価の方法

報告内容（60%）や授業内における発言・質問（40%）など、平常点をもとに総合的な評価を行う。

成績評価の基準

都市・地方が抱える政策課題について、どの程度経済学的な視点で考える方法を身につけることができたかを評価の判断基準とする。なお、成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

金本良嗣・藤原徹共著『都市経済学（第2版）』東京経済新報社
ISBN978-4-492-81303-4

参考書

必要に応じて参考文献を紹介する。また、ニューパブリックマネジメントに関する文献については別途指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	環境問題研究		
教員名	田口 誠		
科目ナンバー	2030735003	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
テーマ：「企業戦略と環境問題の実証研究」 企業の周囲に存在するステークホルダーの自然環境保全意識が向上し、環境問題への適切な対応は、あらゆる産業に属する企業が経営戦略を考える上で重要な課題となっています。 環境保全に関するニーズは、環境に配慮した製品の競争戦略、エコビジネス市場の拡大による事業戦略、環境負荷を低減するための企業組織の構築、従業員の動機付け、自社および自社製品の環境ブランド化、環境会計の実施、社会的責任論の展開など、企業戦略の多くの側面に関連しています。 授業では、国内および海外企業による環境対策の実証研究を通して、環境問題が企業の収益性に与える影響について検証するとともに、望ましい環境戦略のあり方について考察します。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、DP5（表現力、発信力）、DP6（専門分野の知識・理解）を実現するため、次の点を到達目標とする。 1. 教科書として指定した環境問題に関わる文献の内容や構造を理解していること 2. 企業戦略と環境問題の分析に必要な分析手法を修得していること			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション ・受講者が関心を持つ分野に基づいてテキストを決定する。		
	【復習】この授業の意義について説明できるようにする。		60
第2回	テキストの輪読・ディスカッション ・課題として指定した資料の輪読をおこなう。		
	【予習】課題として指定された文献を熟読する。		60
第3回	テキストの輪読・ディスカッション ・課題として指定した資料の輪読をおこなう。		
	【予習】課題として指定された文献を熟読する。		60

第4回	テキストの輪読・ディスカッション ・課題として指定した資料の輪読をおこなう。	
	【予習】課題として指定された文献を熟読する。	60
第5回	テキストの輪読・ディスカッション ・課題として指定した資料の輪読をおこなう。	
	【予習】課題として指定された文献を熟読する。	60
第6回	テキストの輪読・ディスカッション ・課題として指定した資料の輪読をおこなう。	
	【予習】課題として指定された文献を熟読する。	60
第7回	テキストの輪読・ディスカッション ・課題として指定した資料の輪読をおこなう。	
	【予習】課題として指定された文献を熟読する。	60
第8回	テキストの輪読・ディスカッション ・課題として指定した資料の輪読をおこなう。	
	【予習】課題として指定された文献を熟読する。	60
第9回	テキストの輪読・ディスカッション ・課題として指定した資料の輪読をおこなう。	
	【予習】課題として指定された文献を熟読する。	60

第10回	テキストの輪読・ディスカッション ・課題として指定した資料の輪読をおこなう。	
	【予習】課題として指定された文献を熟読する。	60
第11回	テキストの輪読・ディスカッション ・課題として指定した資料の輪読をおこなう。	
	【予習】課題として指定された文献を熟読する。	60
第12回	テキストの輪読・ディスカッション ・課題として指定した資料の輪読をおこなう。	
	【予習】課題として指定された文献を熟読する。	60
第13回	テキストの輪読・ディスカッション ・課題として指定した資料の輪読をおこなう。	
	【予習】課題として指定された文献を熟読する。	60
第14回	テキストの輪読・ディスカッション ・課題として指定した資料の輪読をおこなう。	
	【予習】課題として指定された文献を熟読する。	60
第15回	授業のまとめ・質疑応答	
	【復習】この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度を点検し、不足している知識等を確認し、学修する。	60

授業の方法

国内外の文献を輪読する。受講者による報告形式を中心に進める。
課題として指定された文献を授業の前に読んでから出席すること。

成績評価の方法

平常点100%（宿題の報告70%，授業への参加30%）で評価する。
学期末試験は実施しない。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

1. 教科書として指定した環境問題に関わる文献の内容や構造を理解し、他者にわかりやすく説明できる。
2. 企業戦略と環境問題の分析に必要な定量・定性分析手法を十分に修得している。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

授業において適宜、指示する。

参考書

特になし。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	福祉問題研究		
教員名	丸山 桂		
科目ナンバー	2030735005	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
テーマは、少子高齢化と社会保障です。 急速に進む少子高齢化とともに、社会保障費用の増大が問題となっている。ライフスタイル、就労形態、福祉の供給源の多様化など、社会保障制度が前提としてきた社会像が変容しているなかで、新たな社会保障制度のあり方が求められている。 本講義では、年金、医療、社会福祉（労災、雇用保険、住宅政策、労働政策含む）を対象に、受講者と相談の上、国内、海外の論文を輪読し、経済学の視点で考察することを目的とする。 発表者はレジュメを作成し、発表をおこない、履修者、教員と議論を行う。そして、特定のテーマについて最終レポートを提出することとする。 取り上げるトピックスは、受講生と相談の上、決定する。			
到達目標			
DP 4、6（専門知識の知識・理解）、DP 7（総合マネジメント力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①経済学の視点からの社会保障の理論を説明できる。 ②現行制度の問題点を各種データや客観的な資料に基づき、説明できる。 ③論理的な思考に基づいた具体的な改革案を提示できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、課題レポートの説明、論文の選定を行う。		
	【復習】指示された論文を熟読する。		60
第2回	テキストの輪読・ディスカッション ・指定された論文の輪読をおこなう。		
	【予習】論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】図書館で関連文献を探す。		60
第3回	テキストの輪読・ディスカッション ・指定された論文の輪読をおこなう。		
	【予習】論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】図書館で関連文献を探す		60

第4回	テキストの輪読・ディスカッション ・指定された論文の輪読をおこなう。	
	【予習】論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】図書館で関連文献を探す。	60
第5回	テキストの輪読・ディスカッション ・指定された論文の輪読をおこなう。	
	【予習】論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】図書館で関連文献を探す。	60
第6回	テキストの輪読・ディスカッション ・指定された論文の輪読をおこなう。	
	【予習】論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】図書館で関連文献を探す	60
第7回	テキストの輪読・ディスカッション ・指定された論文の輪読をおこなう。	
	【予習】論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】図書館で関連文献を探す	60
第8回	テキストの輪読・ディスカッション ・指定された論文の輪読をおこなう。	
	【予習】論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】図書館で関連文献を探す。	60
第9回	テキストの輪読・ディスカッション ・指定された論文の輪読をおこなう。	
	【予習】論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】図書館で関連文献を探す。	60

第10回	テキストの輪読・ディスカッション ・指定された論文の輪読をおこなう。	
	【予習】論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】図書館等で関連文献を探す。	60
第11回	テキストの輪読・ディスカッション ・指定された論文の輪読をおこなう。	
	【予習】論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】図書館で関連文献を探す	60
第12回	テキストの輪読・ディスカッション ・指定された論文の輪読をおこなう。	
	【予習】論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】図書館で関連文献を探す。	60
第13回	テキストの輪読・ディスカッション ・指定された論文の輪読をおこなう。	
	【予習】論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】図書館で関連文献を探す。	60
第14回	テキストの輪読・ディスカッション ・指定された論文の輪読をおこなう。	
	【予習】論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】図書館で関連文献を探す。	60
第15回	テキストの輪読・ディスカッション、まとめ ・指定された論文の輪読をおこなう。 ・課題レポートの執筆方法について説明する。	
	【予習】論文を読み、発表者はレジュメにまとめる。 【復習】図書館で関連文献を探す。これまでの発表を振り返り、課題レポートの内容をまとめる。	120

授業の方法

履修者の報告と、教員・履修者全員によるディスカッションを中心とする演習形式で行う。

成績評価の方法

報告内容・授業への貢献を含めた平常点（60%程度）と課題レポート（40%程度）により、総合的に評価する。
病欠等の場合には、必ず事前に連絡を入れること。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

次の3点に着目し、その達成度に応じて、評価する。

- ①経済学の視点からの社会保障の理論を説明できる。
- ②現行制度の問題点を各種データや客観的な資料に基づき、説明できる。
- ③論理的な思考に基づいた具体的な改革案を提示できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

必要な予備知識や先修科目はない。関連科目は大学院における公共政策ユニットの科目。

テキスト

第1回目の授業時に履修者と相談の上、決定する。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	コーポレートファイナンス研究		
教員名	時岡 規夫		
科目ナンバー	2030736002	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
現代ファイナンスは、経済主体の金融に関わる意思決定を取り扱う分野です。その中には、 ・資金の供給主体で証券の需要主体である投資家の資産選択問題などをテーマとする証券投資(Investments) ・資金の需要主体で証券の供給主体である企業の投資政策や資本構成や利益還元政策などをテーマとするコーポレート・ファイナンス(Corporate Finance) ・資金と証券の交換メカニズムである証券市場(Security Markets)や銀行(Banking) などが含まれます。そのうち、この授業では、コーポレート・ファイナンスにスポットを当てます。			
到達目標			
経済学専攻 博士前期課程 高度職業人養成コースに在籍する学生にあつては、DP4・6（専門分野の知識・理解）、DP7（論理的思考力）を実現するため、また、経営学専攻 博士前期課程 高度職業人養成コースに在籍する学生にあつては、DP14・16（専門分野の知識・理解）、DP17（論理的思考力）を実現するため、以下を到達目標とします： 企業の投資政策、資本構成、利益還元政策やコーポレート・ガバナンス、M&A、株式公開、国際財務管理といったコーポレート・ファイナンスのトピックスについての理解を深めることをめざします。さらに、その理解を効果的に説明できることをめざします。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習のしかた等を説明します。 ・テキストの選定、報告担当者を決めます。 ・現代ファイナンス、コーポレート・ファイナンスの学問上の位置づけを把握します。		
	【予習】 シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】 資料等を基に、授業の内容を再確認する。	60	
第2回	企業の投資政策 (1) ※以下、テキストや進捗状況等に応じて内容が一部変更される可能性があります。 ・資料等に基づくプレゼンテーション、ディスカッションを通じて、企業の投資政策について学修します。		
	【予習】 テキストの該当箇所を熟読し、報告担当者は資料等を準備する。 【復習】 資料等を基に、授業の内容を再確認する。	90	
第3回	企業の投資政策 (2) ・資料等に基づくプレゼンテーション、ディスカッションを通じて、ひきつづき、企業の投資政策について学修します。		
	【予習】 テキストの該当箇所を熟読し、報告担当者は資料等を準備する。 【復習】 資料等を基に、授業の内容を再確認する。	90	

第4回	企業の資本構成（1） ・資料等に基づくプレゼンテーション，ディスカッションを通じて，企業の資本構成について学修します。	
	【予習】テキストの該当箇所を熟読し，報告担当者は資料等を準備する。 【復習】資料等を基に，授業の内容を再確認する。	90
第5回	企業の資本構成（2） ・資料等に基づくプレゼンテーション，ディスカッションを通じて，ひきつづき，企業の資本構成について学修します。	
	【予習】テキストの該当箇所を熟読し，報告担当者は資料等を準備する。 【復習】資料等を基に，授業の内容を再確認する。	90
第6回	企業の利益還元政策（1） ・資料等に基づくプレゼンテーション，ディスカッションを通じて，企業の利益還元政策について学修します。	
	【予習】テキストの該当箇所を熟読し，報告担当者は資料等を準備する。 【復習】資料等を基に，授業の内容を再確認する。	90
第7回	企業の利益還元政策（2） ・資料等に基づくプレゼンテーション，ディスカッションを通じて，ひきつづき，企業の利益還元政策について学修します。	
	【予習】テキストの該当箇所を熟読し，報告担当者は資料等を準備する。 【復習】資料等を基に，授業の内容を再確認する。	90
第8回	コーポレート・ガバナンス（1） ・資料等に基づくプレゼンテーション，ディスカッションを通じて，コーポレート・ガバナンスについて学修します。	
	【予習】テキストの該当箇所を熟読し，報告担当者は資料等を準備する。 【復習】資料等を基に，授業の内容を再確認する。	90
第9回	コーポレート・ガバナンス（2） ・資料等に基づくプレゼンテーション，ディスカッションを通じて，ひきつづき，コーポレート・ガバナンスについて学修します。	
	【予習】テキストの該当箇所を熟読し，報告担当者は資料等を準備する。 【復習】資料等を基に，授業の内容を再確認する。	90

第10回	M&Aとコーポレート・ファイナンス（1） ・資料等に基づくプレゼンテーション，ディスカッションを通じて，M&A（合併・買収）について学修します。	
	【予習】テキストの該当箇所を熟読し，報告担当者は資料等を準備する。 【復習】資料等を基に，授業の内容を再確認する。	90
第11回	M&Aとコーポレート・ファイナンス（2） ・資料等に基づくプレゼンテーション，ディスカッションを通じて，ひきつづき，M&A（合併・買収）について学修します。	
	【予習】テキストの該当箇所を熟読し，報告担当者は資料等を準備する。 【復習】資料等を基に，授業の内容を再確認する。	90
第12回	株式公開とコーポレート・ファイナンス（1） ・資料等に基づくプレゼンテーション，ディスカッションを通じて，株式公開について学修します。	
	【予習】テキストの該当箇所を熟読し，報告担当者は資料等を準備する。 【復習】資料等を基に，授業の内容を再確認する。	90
第13回	株式公開とコーポレート・ファイナンス（2） ・資料等に基づくプレゼンテーション，ディスカッションを通じて，ひきつづき，株式公開について学修します。	
	【予習】テキストの該当箇所を熟読し，報告担当者は資料等を準備する。 【復習】資料等を基に，授業の内容を再確認する。	90
第14回	国際財務管理（1） ・資料等に基づくプレゼンテーション，ディスカッションを通じて，国際財務管理について学修します。	
	【予習】テキストの該当箇所を熟読し，報告担当者は資料等を準備する。 【復習】資料等を基に，授業の内容を再確認する。	90
第15回	国際財務管理（2） ・資料等に基づくプレゼンテーション，ディスカッションを通じて，ひきつづき，国際財務管理について学修します。	
	【予習】テキストの該当箇所を熟読し，報告担当者は資料等を準備する。 【復習】資料等を基に，授業の内容を再確認する。	90

授業の方法

コーポレート・ファイナンスに関するテキストを決めて輪読形式で進めることを想定しています。なお、プレゼンテーションのねらいは次のとおりです。

- ・プレゼンテーション：テキストの該当箇所を熟読し、その内容を理解して、自分の理解を効果的に説明できているかを確認する。

成績評価の方法

プレゼンテーションの内容および授業への参加状況、ディスカッションへの参加・貢献度等によって総合的に評価します。評価ウェイトはプレゼンテーションの内容が50%、授業への参加状況やディスカッションへの参加・貢献度などが50%を目安とする予定です。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠します。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ・企業の投資政策、資本構成、利益還元政策やコーポレート・ガバナンス、M&A、株式公開、国際財務管理といったコーポレート・ファイナンスのトピックスについて理解し、明確に説明できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目としては、「ミクロエコノミクス基礎研究」、「資産選択理論研究」、「証券市場研究」など。

テキスト

現時点での候補としては以下のものを考えていますが、最終的には第1回の授業で参加者と相談しながら決める予定ですので、事前に購入する必要はありません。

- ・Brealey, Richard A., Stewart C. Myers, and Franklin Allen, 2016, Principles of Corporate Finance, 12th ed., New York: McGraw-Hill Education (ISBN 978-1259253331)（邦訳の最新版は第10版；リチャード・ブリーリー＝スチュワート・マイヤーズ＝フランクリン・アレン〔著〕、藤井 眞理子・國枝 繁樹〔監訳〕、2014、『コーポレートファイナンス』、第10版、上・下、日経BP社）

参考書

たとえば、基本的な文献として

- ・新井 富雄・渡辺 茂・太田 智之〔著〕、1999、『資本市場とコーポレート・ファイナンス』、中央経済社（3,500円＋税、ISBN 4-502-34902-1）
 - ・砂川 伸幸、2004、『コーポレート・ファイナンス入門』、日本経済新聞社（830円＋税、ISBN 4-532-11035-1）
 - ・岸本 光永・津森 信也・阿部 正樹〔著〕、1999、『現代ファイナンス入門』、中央経済社（3,000円＋税、ISBN 4-502-34882-1）
 - ・榊原 茂樹・菊池 誠一・新井 富雄・太田 浩司〔著〕、2011、『現代の財務管理』、新版、有斐閣（2,100円＋税、ISBN 4-641-12427-2）
 - ・米澤 康博・小西 大・芹田 敏夫〔著〕、2004、『新しい企業金融』、有斐閣（1,900円＋税、ISBN 4-641-12217-2）
- を挙げますが、その他、個々のトピックスに関する参考図書や論文等についても授業の中で適宜紹介していく予定です。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	上級理論研究（応用ミクロ経済分析3）		
教員名	吉田 由寛		
科目ナンバー	2030741019	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

当科目のテーマは、ミクロ経済学理論の応用による経済現象や社会現象の分析である。単に応用ミクロ経済学の分野での代表的な既存研究を理解するだけでなく、自らこの分野での研究対象を具体的に探し求めること、そして実際に新たな研究成果を出すことが学生には求められる。

到達目標

DP3・DP22（研究能力及び発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。

- ・ 応用ミクロ経済学の分析手法を身に着ける。
- ・ 応用ミクロ経済学の分野で、学術的に価値がある研究成果を出す。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	研究テーマと研究計画の確認	
	研究の方向性と計画を固める。	120
第2回	研究成果の報告1	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第3回	研究成果の報告2	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120

第4回	研究成果の報告3	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第5回	研究成果の報告4	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第6回	研究成果の報告5	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第7回	研究成果の報告6	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第8回	研究成果の報告7	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第9回	研究成果の報告8	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120

第10回	研究成果の報告9	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第11回	研究成果の報告10	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第12回	研究成果の報告11	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第13回	研究成果の報告12	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第14回	公開セミナーへ向けて1	
	公開セミナーでの報告を準備する。	120
第15回	公開セミナーへ向けて2	
	公開セミナーでの報告を準備する。	120

授業の方法

学生による研究成果の報告および提出が中心となる。

成績評価の方法

口述での報告（30 %程度）、提出された研究成果（70 %程度）により総合的に評価する。

成績評価の基準

- ・ 成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11 条の2）に準拠する。
- ・ とりわけ、上述の到達目標への達成度を評価する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

ミクロ経済学とゲーム理論を十分に理解していること。「上級理論研究（応用ミクロ経済分析1）」と「上級理論研究（応用ミクロ経済分析2）」を既に履修済みであること、さらに「上級理論研究（応用ミクロ経済分析4）」と合わせて履修することが望ましい。

テキスト

初回授業で指定する。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	上級理論研究（応用ミクロ経済分析4）		
教員名	吉田 由寛		
科目ナンバー	2030741020	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

当科目のテーマは、ミクロ経済学理論の応用による経済現象や社会現象の分析である。単に応用ミクロ経済学の分野での代表的な既存研究を理解するだけでなく、自らこの分野での研究対象を具体的に探し求めること、そして実際に新たな研究成果を出すことが学生には求められる。

到達目標

DP3・DP22（研究能力及び発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。

- ・ 応用ミクロ経済学の分析手法を身に着ける。
- ・ 応用ミクロ経済学の分野で、学術的に価値がある研究成果を出す。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	研究テーマと研究計画の確認	
	研究の方向性と計画を固める。	120
第2回	研究成果の報告1	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第3回	研究成果の報告2	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120

第4回	研究成果の報告3	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第5回	研究成果の報告4	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第6回	研究成果の報告5	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第7回	研究成果の報告6	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第8回	研究成果の報告7	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第9回	研究成果の報告8	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120

第10回	研究成果の報告9	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第11回	研究成果の報告10	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第12回	研究成果の報告11	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第13回	研究成果の報告12	
	研究計画に沿って研究を継続する。	120
第14回	公開セミナーへ向けて1	
	公開セミナーでの報告を準備する。	120
第15回	公開セミナーへ向けて2	
	公開セミナーでの報告を準備する。	120

授業の方法

学生による研究成果の報告および提出が中心となる。

成績評価の方法

口述での報告（30 %程度）、提出された研究成果（70 %程度）により総合的に評価する。

成績評価の基準

- ・ 成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11 条の2）に準拠する。
- ・ とりわけ、上述の到達目標への達成度を評価する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

ミクロ経済学とゲーム理論を十分に理解していること。「上級理論研究（応用ミクロ経済分析1）」と「上級理論研究（応用ミクロ経済分析2）」を既に履修済みであること、さらに「上級理論研究（応用ミクロ経済分析3）」と合わせて履修することが望ましい。

テキスト

初回授業で指定する。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	学際分野特殊研究（力学系の理論と応用）		
教員名	藤垣 芳文		
科目ナンバー	2230753010	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

微分方程式の「解」の求め方についての基礎知識を学び、その方法を社会現象や自然現象の分析に応用する力を養う。さらに、微分方程式の平衡点および解曲線の「分岐」に関する初歩の理論を学習し、それを複雑な社会経済問題に応用することを試みる。解析的方法によって厳密に解ける微分方程式は限定されるので、そうでないものを取り扱うための線型近似やコンピュータによる数値計算の方法にも、いろいろな例題を通して慣れ親しむ。

到達目標

DP 6（専門分野の知識、理解）、DP7（論理的思考力）を実現するため以下を到達目標とする。
（１）自然現象や社会現象を微分方程式を用いてモデル化する力を養うこと。
（２）モデル化によって立てた微分方程式を、厳密に、あるいは図形的、ないしは近似的に解く方法を身につけ、それから得た結果を分析することで問題解決につなぐための科学的な考え方や方法を習得すること。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	序論・現象のモデル化と微分方程式	
	配布資料を用いての予習復習	90
第2回	状態の変化に関するいくつかの例題	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90
第3回	1階微分方程式	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90

第4回	2階以上の微分方程式	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90
第5回	連立線形定係数微分方程式	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90
第6回	非線形微分方程式	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90
第7回	平衡点の分岐	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90
第8回	リミットサイクル	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90
第9回	ホップ分岐	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90

第10回	応用のための準備・経済主体の最適化行動入門	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90
第11回	応用 1・市場を介した企業間の相互作用	
	配布資料を用いての予習復習	90
第12回	応用 2・経済過程における内生的循環	
	配布資料を用いての予習復習	90
第13回	応用 3・環境問題と環境税政策	
	配布資料を用いての予習復習	90
第14回	応用 4・国際貿易と一般均衡	
	配布資料を用いての予習復習	90
第15回	復習とまとめ	
	配布資料を用いての復習	120

授業の方法

講義を中心に授業を進める。毎回、プリントを配布し、それにもとづいて講義を行う。

成績評価の方法

授業中に不定期に実施する小テストと期末レポートを総合して評価する。評価の割合は、平常点50%、期末レポート50%を予定する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 11-2.

上記、達成目標の達成度にもとづいて評価する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識として「微分・積分」等の解析学の基本、「ベクトル・行列」等の線形数学の基本が必要。

テキスト

テキストは使用しない。毎回、担当者が作成した資料を配布する。

参考書

ローレンツ・H・W 著『非線形経済動学とカオス』，日本経済評論社，2000

桑村 雅隆 著『パターン形成と分岐理論』，共立出版，2015

新貝 寿明 著『徹底攻略 常微分方程式』，共立出版，2010

Strogatz, S. H., Nonlinear Dynamics and Chaos, 2nd ed., Westview Press, 2015

Wolfram, S., An Elementary Introduction to the Wolfram Language, 2nd ed., Wolfram 社のホームページからダウンロード可能

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	Current Topics		
教員名	山上 浩明		
科目ナンバー	2030760003	単位数	2
配当年次		開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

テーマ：環境政策論
 すでにその重要性が広く認知されている環境問題とその対策について学ぶ。環境問題の歴史や対策について問題の規模や地域に応じて概観し、経済学的な考え方にに基づきながら考察する。さらに、環境問題の対策のプレイヤーとして公的な機関・主体だけでなく、私的な主体、つまり企業や家計（個人）がとる対策とその動機について考察する。

到達目標

DP6（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下を到達目標とする。

- ①異なる背景を持つ環境問題を客観的に整理することができる。
- ②問題解決のために有効な手段について考察・議論することができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べる。	60-90分
第2回	講義：地域的環境問題	
	【予習】 Seikei Portal で資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べる。	60-90分
第3回	ディスカッション：地域的環境問題	
	【予習】 Seikei Portal で資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べる。	60-90分

第4回	講義：大域的環境問題	
	【予習】 Seikei Portal で資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べる。	60-90分
第5回	ディスカッション：大域的環境問題	
	【予習】 Seikei Portal で資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べる。	60-90分
第6回	講義：環境問題と経済学	
	【予習】 Seikei Portal で資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べる。	60-90分
第7回	ディスカッション：環境問題と経済学	
	【予習】 Seikei Portal で資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べる。	60-90分
第8回	講義：税と補助	
	【予習】 Seikei Portal で資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べる。	60-90分
第9回	ディスカッション：税と補助	
	【予習】 Seikei Portal で資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べる。	60-90分

第10回	講義：量規制・排出権取引	
	【予習】 Seikei Portal で資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べる。	60-90分
第11回	ディスカッション：量規制・排出権取引	
	【予習】 Seikei Portal で資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べる。	60-90分
第12回	講義：厳格責任・過失責任	
	【予習】 Seikei Portal で資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べる。	60-90分
第13回	ディスカッション：厳格責任・過失責任	
	【予習】 Seikei Portal で資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べる。	60-90分
第14回	講義：金融機関の役割	
	【予習】 Seikei Portal で資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べる。	60-90分
第15回	ディスカッション：金融機関の役割	
	【予習】 Seikei Portal で資料をダウンロードし、目を通す。補足的な情報を文献やインターネットを通して自ら調べる。 【復習】 資料を見直す。とりあげたトピックについて文献やインターネットを通して自ら調べる。	60-90分

授業の方法

「講義」を予定する際には、資料を配布し、講義を行う。「ディスカッション」を予定する際には、受講者からのテーマの提供を要求することもある。

成績評価の方法

受講者の数に応じて以下の二通りのうちどちらかを採用する。

- ① 報告 (50%) + 講義への積極性 (50%)
- ② 講義への積極性 (50%) + レポート (50%)

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 11-2.

- ① 異なる背景を持つ環境問題を客観的に整理することができる。
- ② 問題解決のために有効な手段について考察・議論することができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特に必要としない。しかしミクロ経済学の知識があると、講義の内容の理解の助けとなる。

テキスト

特になし。

参考書

- [1] 日引聡・有村俊秀 (2002) 『入門 環境経済学 環境問題解決へのアプローチ』中公新書
- [2] 藤井良広 (2013) 『環境金融論 持続可能な社会と経済のためのアプローチ』青土社
- [3] 栗山 浩一・馬奈木 俊介 (2016) 『環境経済学をつかむ 第3版』有斐閣
- [4] Kolstad, C. D. (2001) 『環境経済学入門』有斐閣

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。